

令和4年度
次期総合計画策定に関する外国籍市民アンケート調査
調査結果報告書

令和4年10月
新潟市観光・国際交流部国際課

目次

I 調査概要

- 1. 調査の目的 4
- 2. 調査の設計 4
- 3. 集計・分析にあたって 4

II 新潟市における在留外国人の概況

- 1. 市全体 6
- 2. 区別 7

III 調査結果

- 1. 日本語能力について
 - (1)日本語を「話す」能力 11
 - (2)日本語を「聞く」能力 12
 - (3)日本語を「読む」能力 13
 - (4)日本語を「書く」能力 14
- 2. 新潟市の住みやすさについて
 - (1)新潟市の住みやすさ 15
 - (2)住みやすいと思う理由 16
 - (3)「住みにくい」と思う理由 18
- 3. 国際的な都市について
 - (1)新潟市は国際的な都市だと思うか 19
 - (2)「国際的な都市」だと思う理由 20
 - (3)「国際的な都市」だと思わない理由 21
- 4. 相談相手
 - (1)相談相手 22
- 5. 利用している SNS
 - (1)利用している SNS 24
- 6. 生活で困る(困った)こと
 - (1)生活で困る(困った)こと 26
 - (2)市役所や区役所の手続きで困る(困った)こと 28
 - (3)地域生活で困る(困った)こと 29
 - (4)病院・医療で困る(困った)こと 30
 - (5)子育てや教育で困る(困った)こと 31
 - (6)災害に対し心配なこと 32
 - (7)災害時の情報入手手段 33
 - (8)仕事のことで困る(困った)こと 34

I 調査概要

1. 調査の目的

“新潟市は外国籍市民にとって暮らしやすいまちか”、“新潟市は国際的なまちと思うか”について外国籍市民の意識を調査し、次期総合計画政策指標策定の基礎資料とする。

2. 調査の設計

- (1)対象者 :市内に居住する満18歳以上の外国籍市民 計4,862名
- (2)調査方法 :郵送法(調査票の配付)、回答は郵送及びインターネット(WEB)
- (3)調査期間 :令和4年8月30日～9月19日
- (4)配付数・回収数・回収率

	郵送回収数	インターネット回収数	合計
回収数	792	356	1,148
回収率	16.3%	7.3%	23.6%

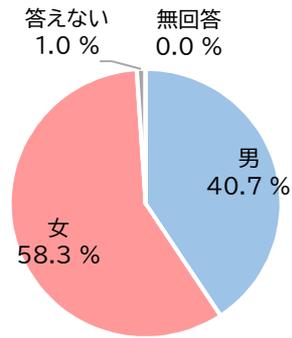
3. 集計・分析にあたって

- (1)図表中の「n」とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2)結果は百分率(%)で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。

Ⅱ 新潟市における在留外国人の概況

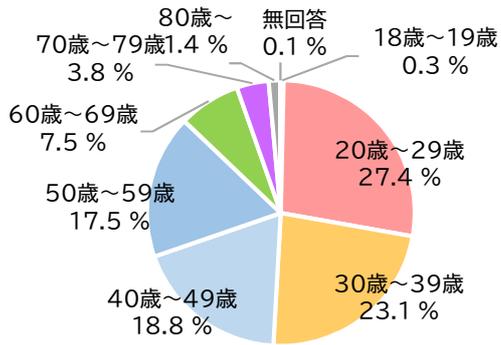
1. 市全体

◆性別



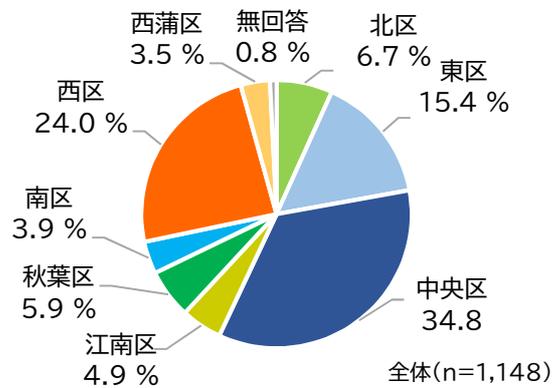
全体(n=1,148)

◆年齢



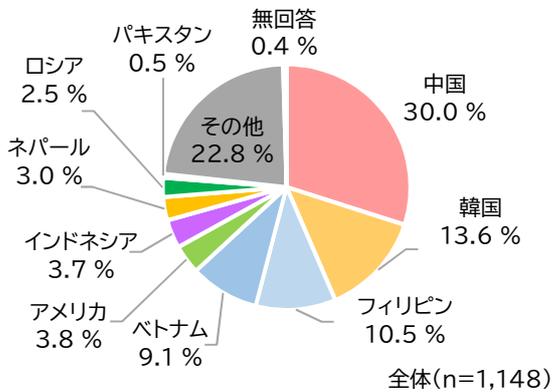
全体(n=1,148)

◆居住区



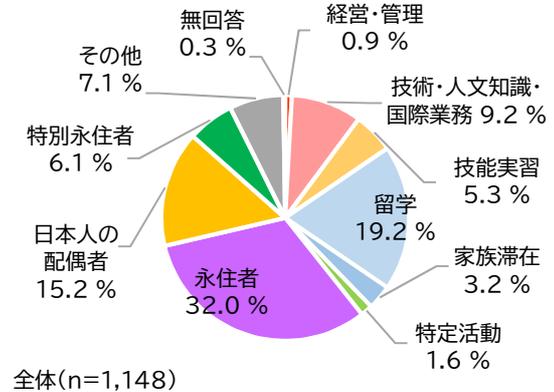
全体(n=1,148)

◆国籍



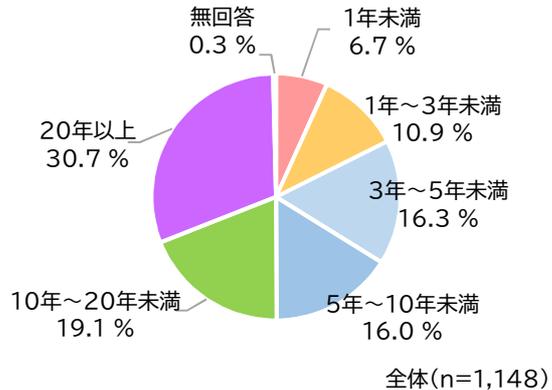
全体(n=1,148)

◆在留資格



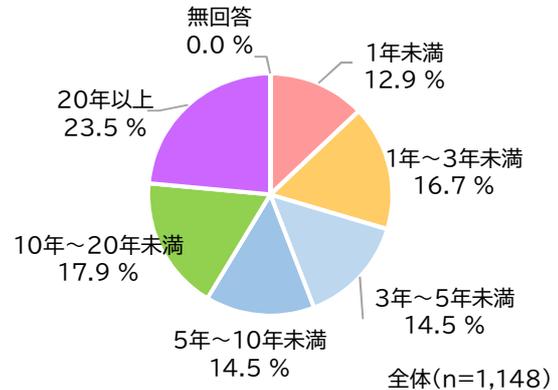
全体(n=1,148)

◆日本での居住期間



全体(n=1,148)

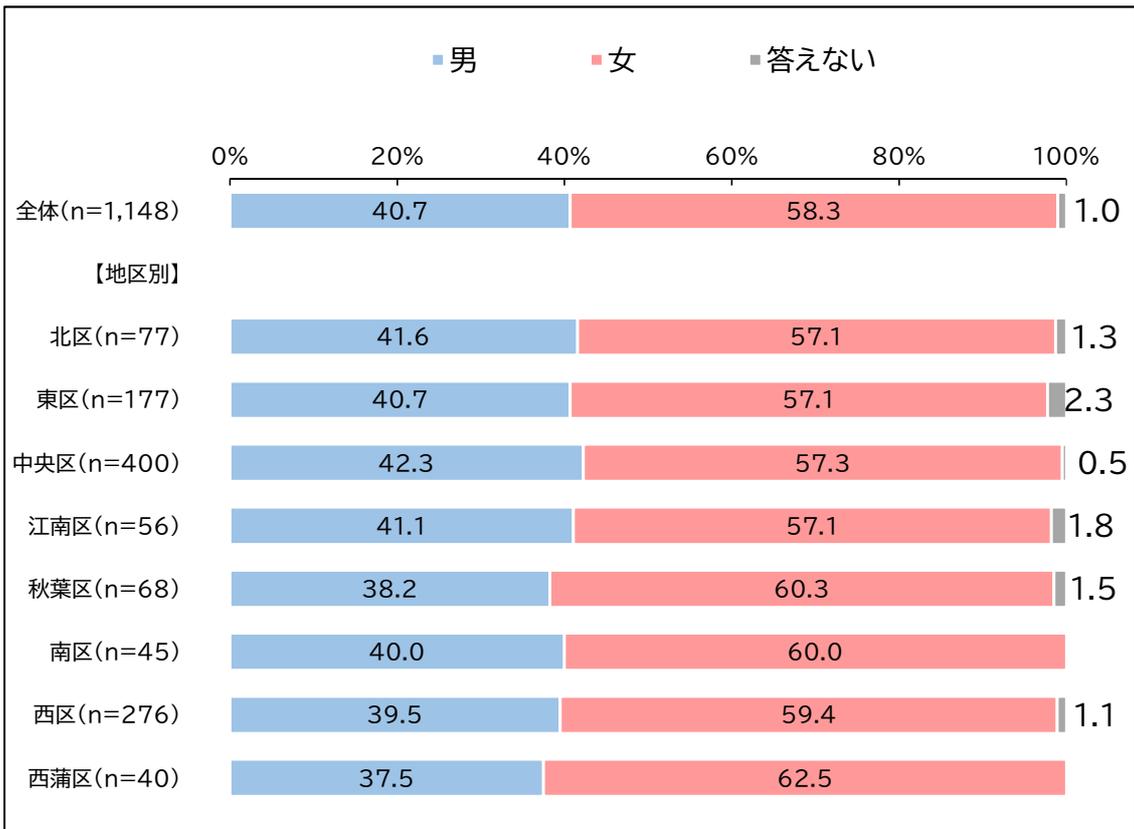
◆新潟での居住期間



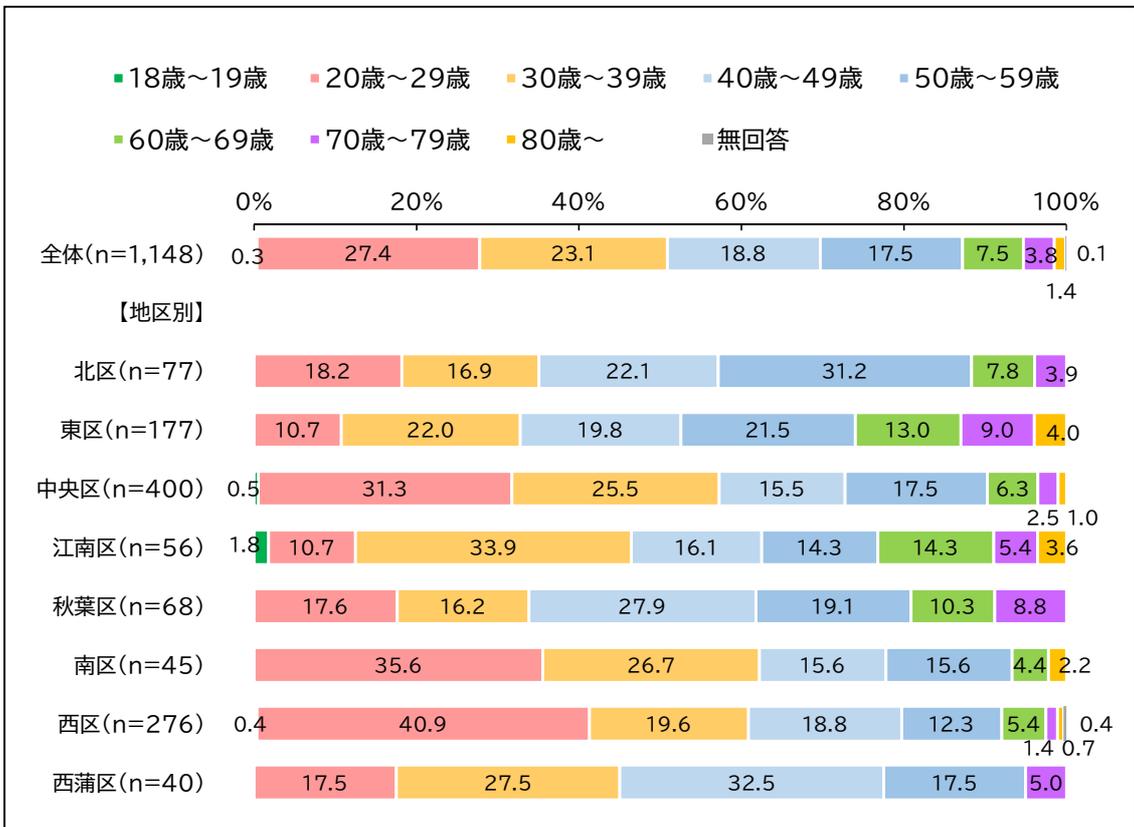
全体(n=1,148)

2. 区別

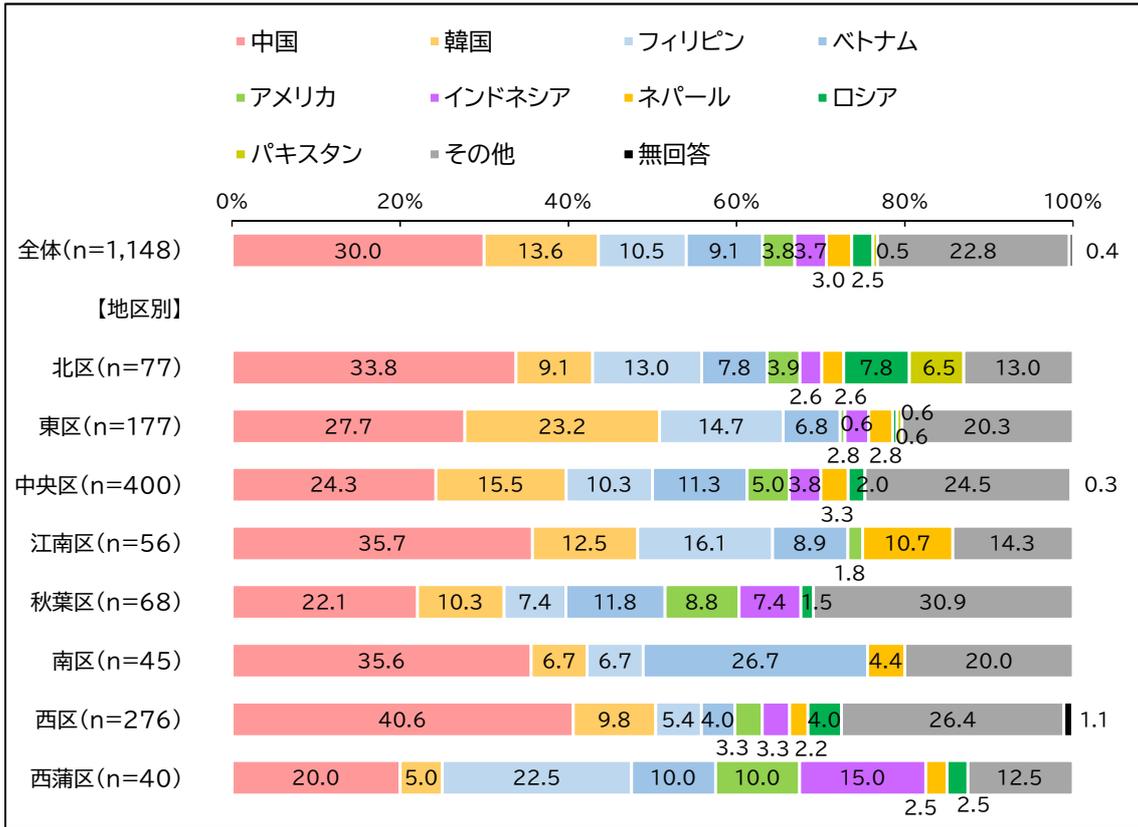
◆性別



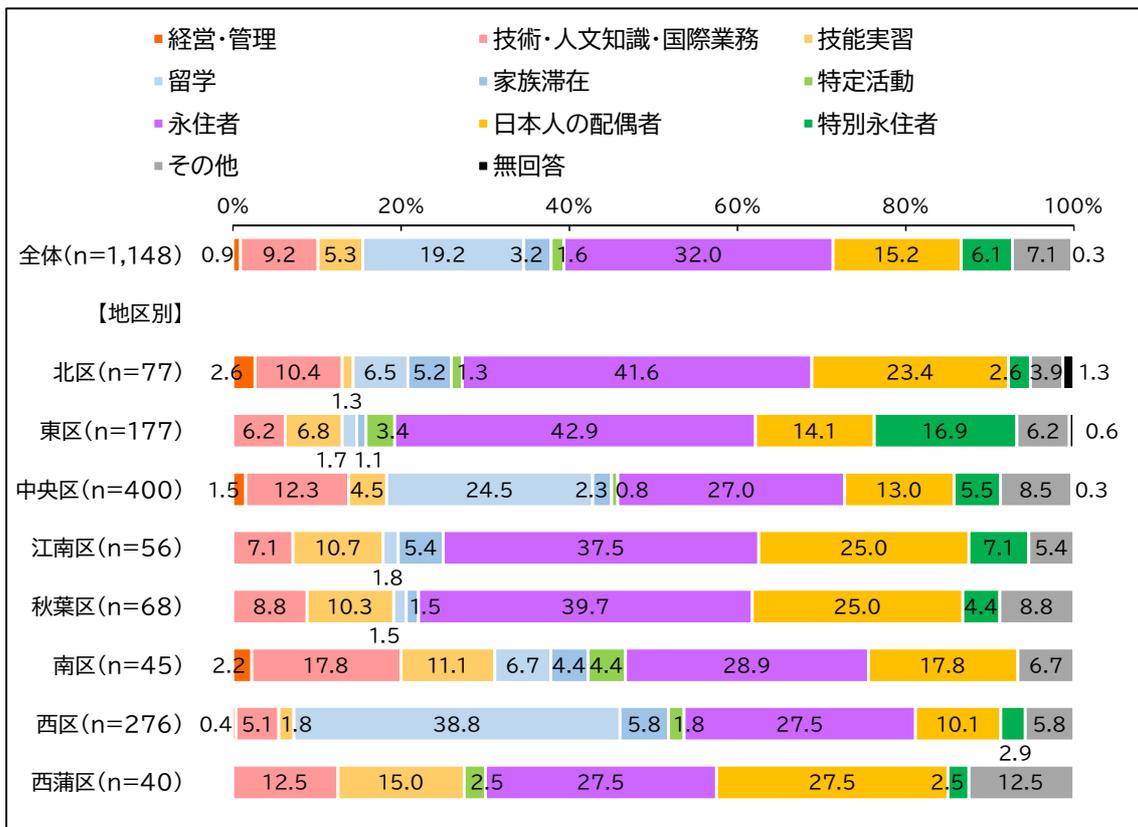
◆年齢



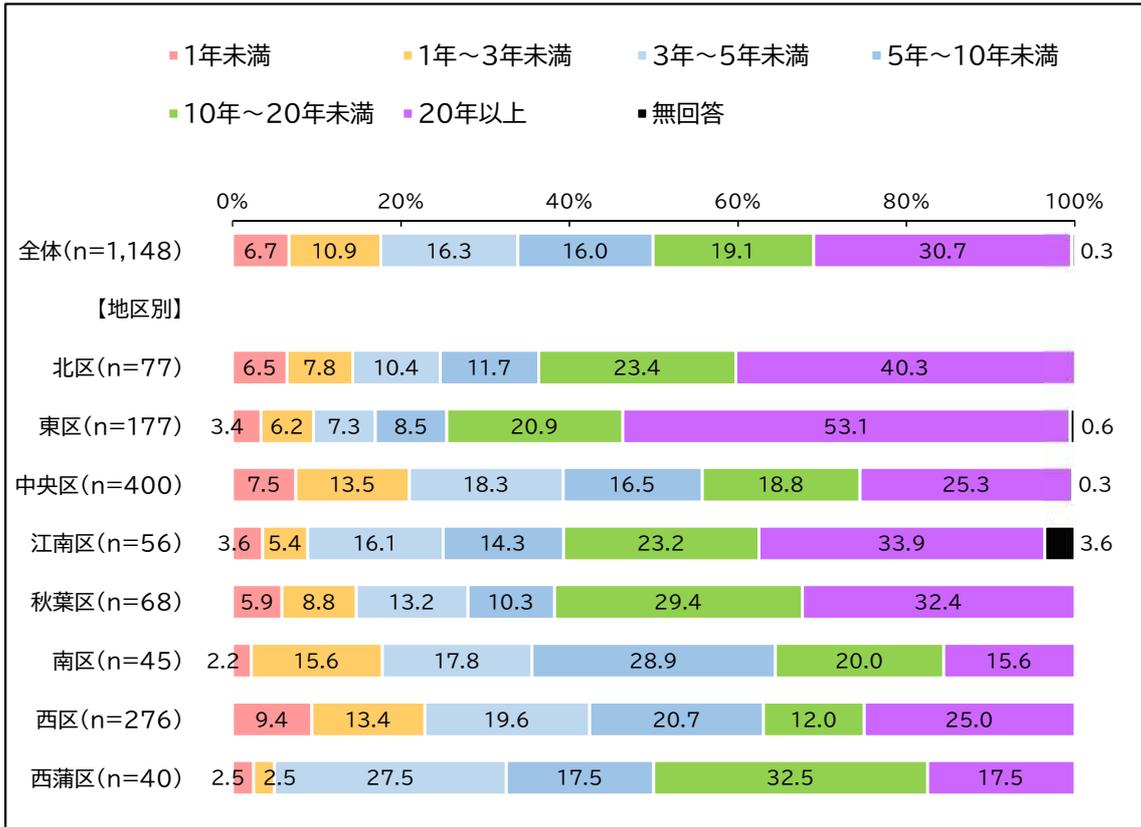
◆国籍



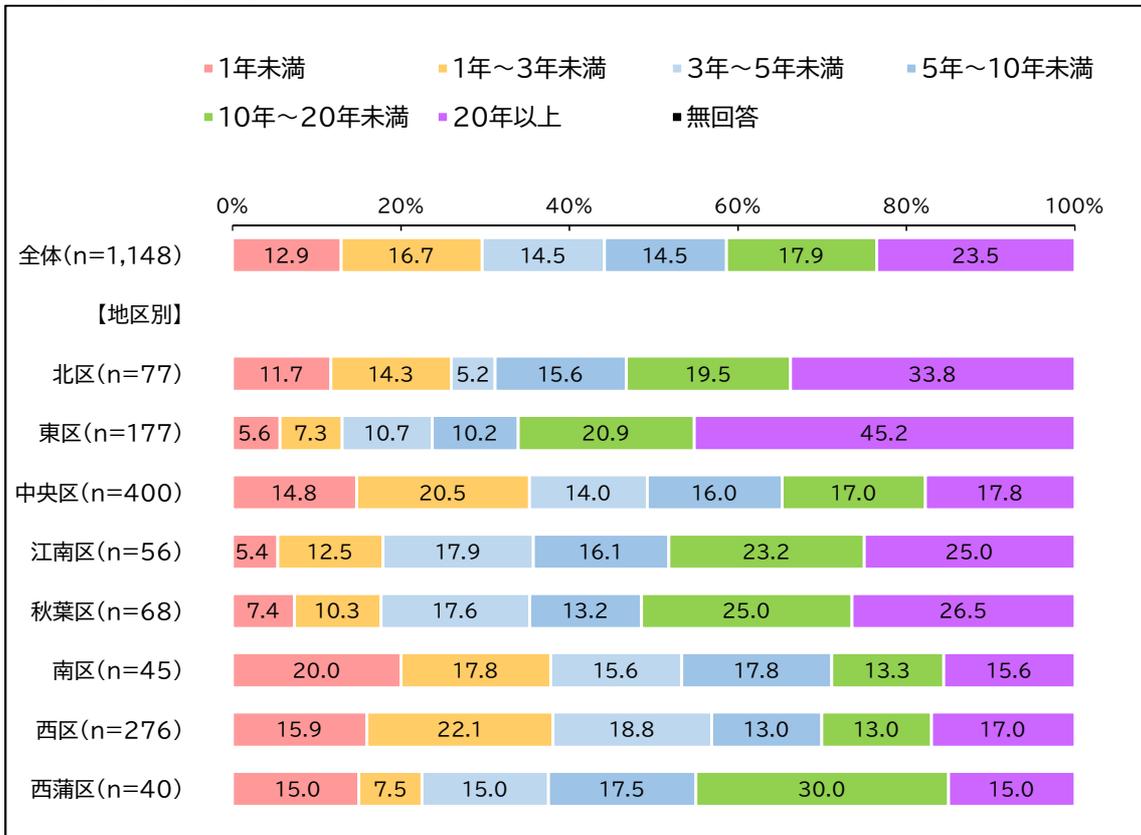
◆在留資格



◆日本での居住期間



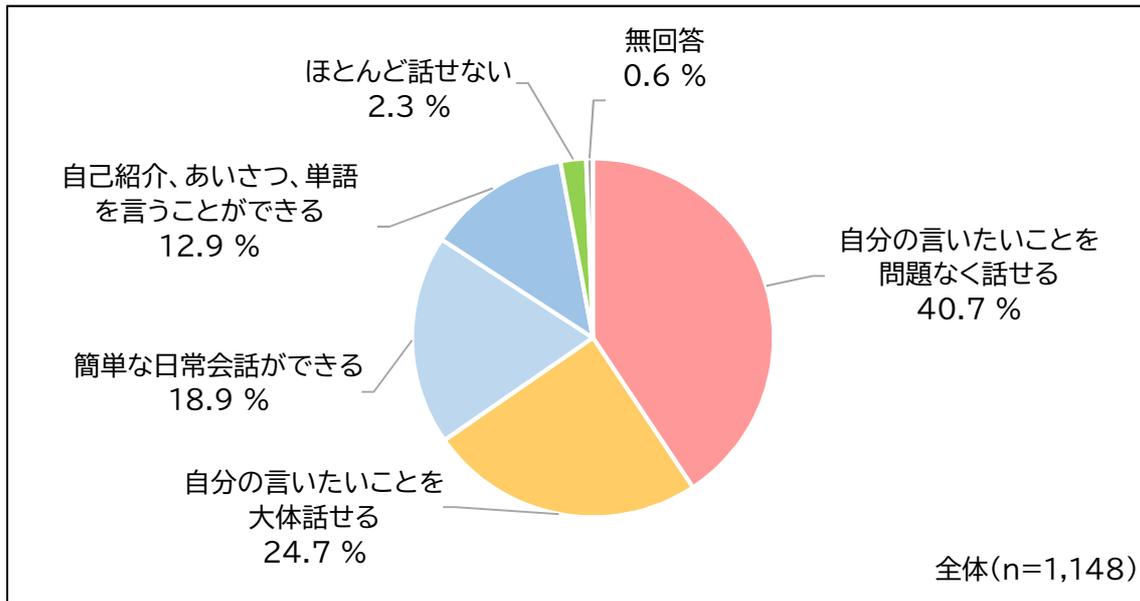
◆新潟での居住期間



Ⅲ 調査結果

1. 日本語能力について

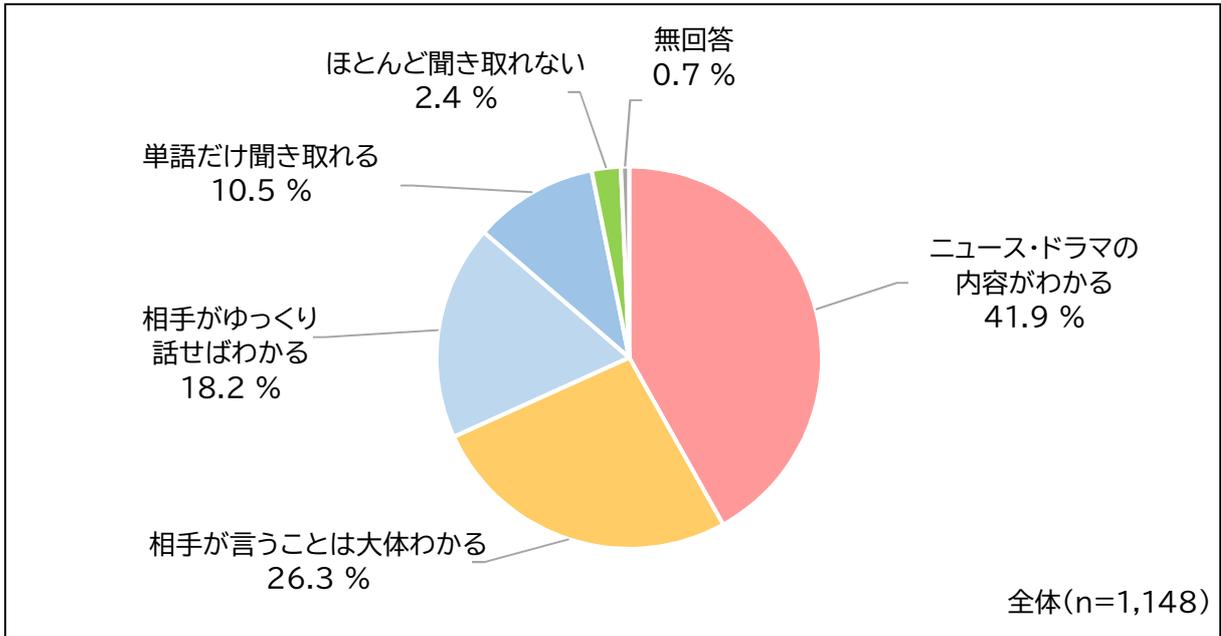
(1)日本語を「話す」能力



【傾向】

- 「自分の言いたいことを問題なく話せる」と答えた人の割合は、年齢が高いほど高くなる傾向がみられる。
- 回答者数が少ない区もあり参考とするが、「自分の言いたいことを問題なく話せる」と答えた人の割合は、東区(48.0%)、江南区(46.4%)、中央区(44.3%)で高かった。
- 回答者数が 100 人以上の国籍をみると、「自分の言いたいことを問題なく話せる」と答えた人の割合は、韓国(80.8%)で最も高く、次に中国(40.7%)の順となった。
- 回答者数が 100 人以上の在留資格をみると、「自分の言いたいことを問題なく話せる」と答えた人の割合は、永住者(51.8%)で最も高く、次に技術・人文知識・国際業務(46.2%)、日本人の配偶者(30.9%)の順となった。
- 「自分の言いたいことを問題なく話せる」と答えた人の割合は、居住期間が長いほど高くなる。

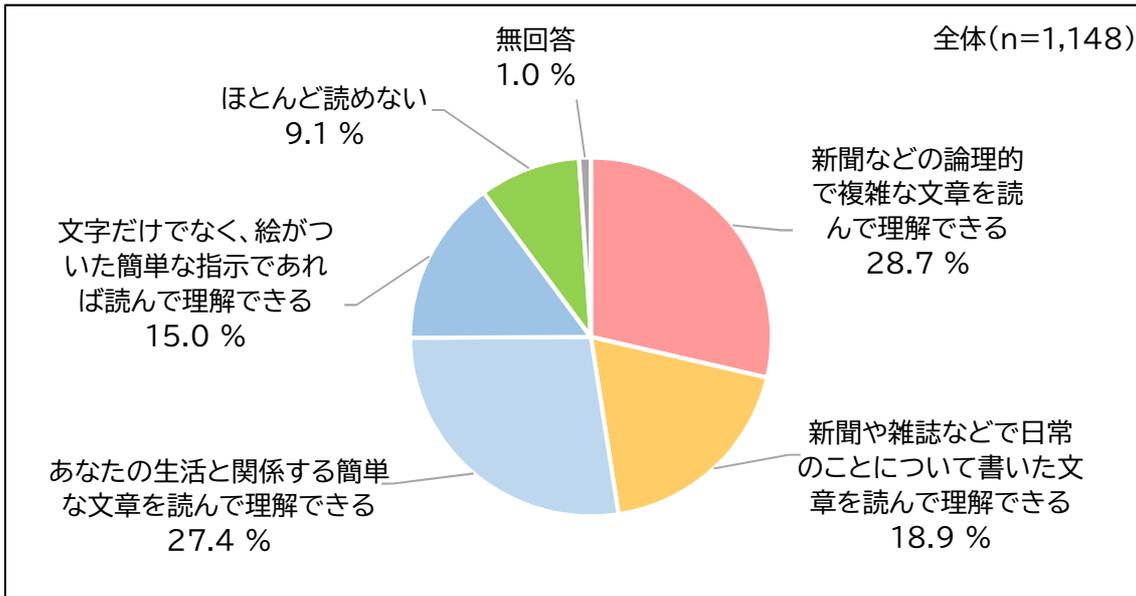
(2)日本語を「聞く」能力



【傾向】

- 男女での大きな違いはみられなかった。
- 「ニュース・ドラマの内容がわかる」と答えた人の割合は、年齢が高いほど高くなる傾向がみられる。
- 回答者数が少ない区もあり参考とするが、「ニュース・ドラマの内容がわかる」と答えた人の割合は、東区(46.3%)、中央区(45.5%)、江南区(44.6%)で高かった。
- 回答者数が 100 人以上の国籍をみると、「ニュース・ドラマの内容がわかる」と答えた人の割合は、韓国(85.3%)で最も高く突出している。次に中国(48.3%)の順となった。
- 回答者数が 100 人以上の在留資格をみると、「ニュース・ドラマの内容がわかる」と答えた人の割合は、永住者(57.5%)で最も高く、次に技術・人文知識・国際業務(39.6%)、日本人の配偶者(30.3%)の順となった。
- 「ニュース・ドラマの内容がわかる」と答えた人の割合は、居住期間が長いほど高くなる。

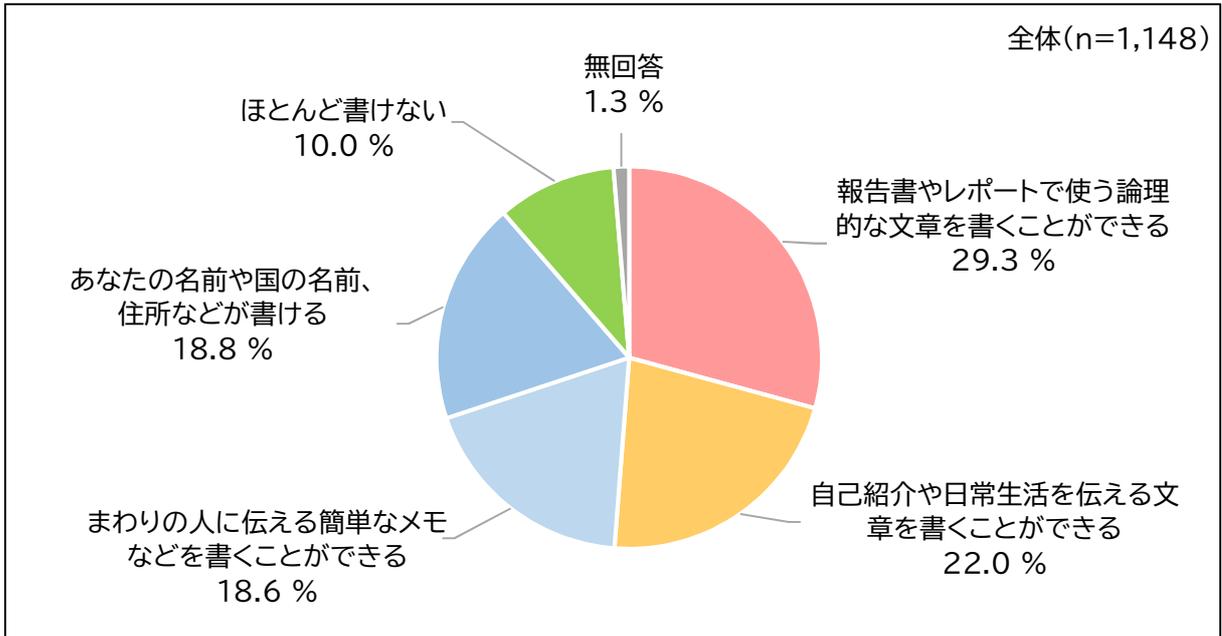
(3)日本語を「読む」能力



【傾向】

- 「新聞などの論理的で複雑な文章を読んで理解できる」と答えた人の割合は、女性(25.7%)と比較して男性(32.8%)で高い。
- 「新聞などの論理的で複雑な文章を読んで理解できる」と答えた人の割合は、18～69 歳では2割半ばかりから3割程度と大きな差はみられないが、70歳以上(70.0%)では7割と突出して高かった。
- 回答者数が少ない区もあり参考とするが、「新聞などの論理的で複雑な文章を読んで理解できる」と答えた人の割合は、東区(35.0%)、中央区(31.8%)、西区(31.5%)で高かった。
- 回答者数が100人以上の国籍をみると、「新聞などの論理的で複雑な文章を読んで理解できる」と答えた人の割合は、韓国(69.9%)で最も高く突出している。次に中国(39.8%)の順となった。
- 回答者数が100人以上の在留資格をみると、「新聞などの論理的で複雑な文章を読んで理解できる」と答えた人の割合は、永住者(33.5%)で最も高く、次に留学(29.1%)、技術・人文知識・国際業務(27.4%)の順となった。
- 「新聞などの論理的で複雑な文章を読んで理解できる」と答えた人の割合は、居住期間が長いほど高くなる。

(4)日本語を「書く」能力

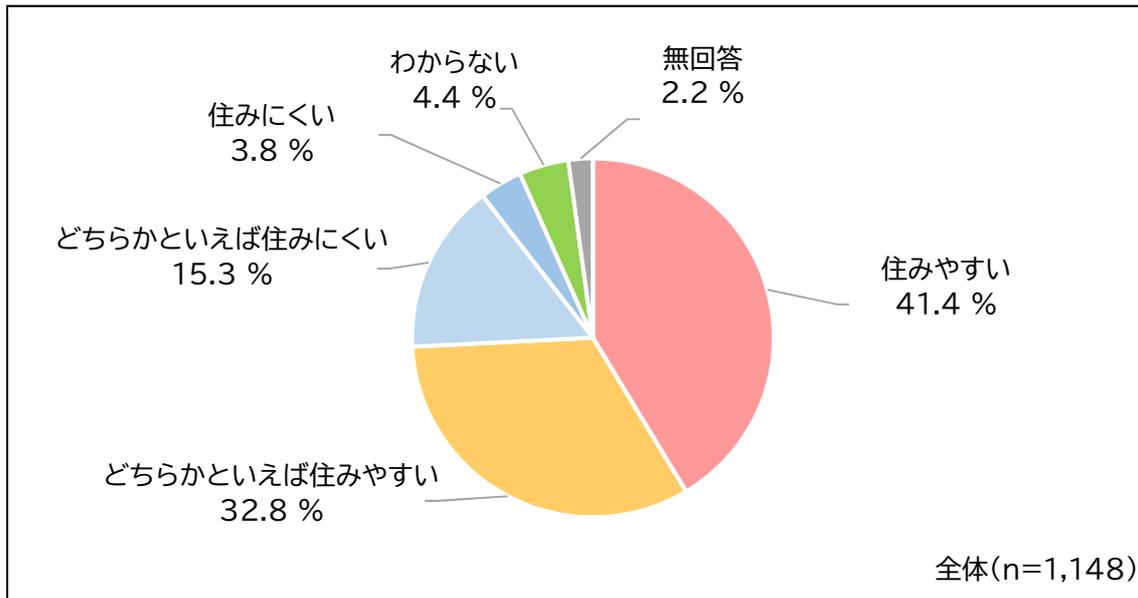


【傾向】

- 男女での大きな違いはみられなかった。
- 「報告書やレポートで使う論理的な文章を書くことができる」と答えた人の割合は、70歳以上(65.0%)で最も高く突出している。次に18歳～29歳(37.0%)、30歳～39歳(25.3%)の若い世代が続いた。
- 回答者数が少ない区もあり参考とするが、「報告書やレポートで使う論理的な文章を書くことができる」と答えた人の割合は、西区(37.3%)、東区(32.8%)、中央区(32.0%)で高かった。西区では留学生の割合が38.8%と高いことが要因となっていると考えられる。
- 回答者数が100人以上の国籍をみると、「報告書やレポートで使う論理的な文章を書くことができる」と答えた人の割合は、韓国(62.2%)で最も高く、次に中国(40.1%)の順となった。
- 回答者数が100人以上の在留資格をみると、「報告書やレポートで使う論理的な文章を書くことができる」と答えた人の割合は、技術・人文知識・国際業務と留学(いずれも37.7%)で最も高く、次に永住者(28.3%)の順となった。
- 「報告書やレポートで使う論理的な文章を書くことができる」と答えた人の割合は、日本での居住期間が長いほど高くなる。
- 「報告書やレポートで使う論理的な文章を書くことができる」と答えた人の割合は、新潟での居住期間が20年以上(38.9%)で最も高い。次に1年から3年未満(31.3%)、1年未満(28.4%)の順に続く。

2. 新潟市の住みやすさについて

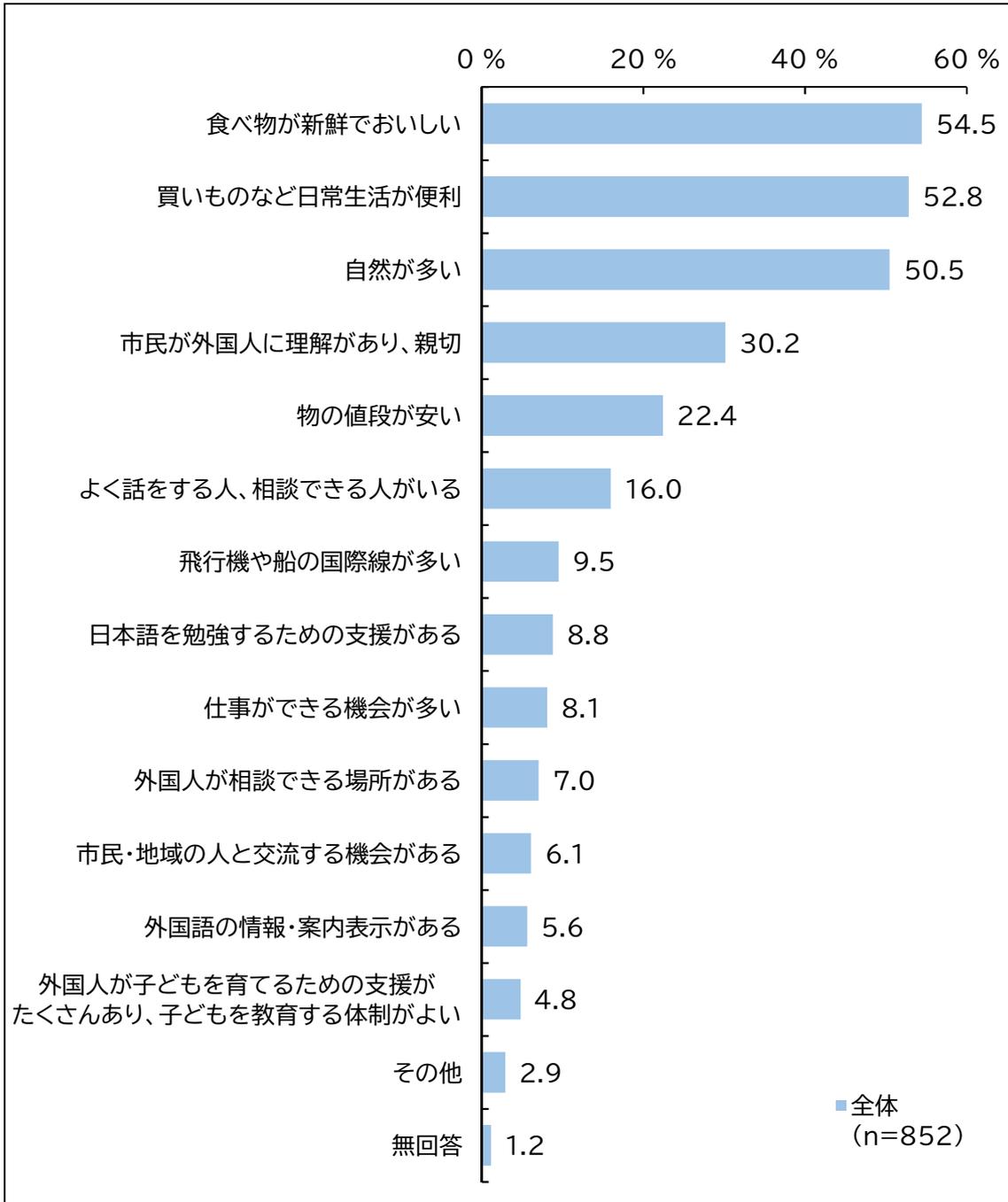
(1)新潟市の住みやすさ



【傾向】

- 「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』と答えた人の割合は、男性(71.7%)と比較して女性(76.2%)で高かった。
- 『住みやすい』と答えた人の合計の割合は、年齢が高いほど高くなる傾向がみられる。
- 回答者数が少ない区もあり参考とするが、『住みやすい』と答えた人の合計の割合は、江南区(53.6%)で最も高く 5 割を超えた。次に中央区(44.3%)、東区(43.5%)、西蒲区(42.5%)の順となった。
- 回答者数が 100 人以上の国籍をみると、『住みやすい』と答えた人の合計の割合は、フィリピン(83.3%)で最も高く、次に中国(83.1%)、ベトナム(71.2%)、韓国(70.5%)の順となった。
- 回答者数が 100 人以上の在留資格をみると、『住みやすい』と答えた人の合計の割合は、永住者(79.0%)で最も高く、次に留学(71.8%)、技術・人文知識・国際業務(71.7%)、日本人の配偶者(69.1%)の順となった。
- 新潟での居住期間をみると、「住みやすい」と答えた人の割合は、居住期間が長いほど高くなっている。
- 「住みやすい」と答えた人の割合は、日本語の能力が高いほど高くなる傾向がみられる。

(2)住みやすいと思う理由 ※3 つまで選択可

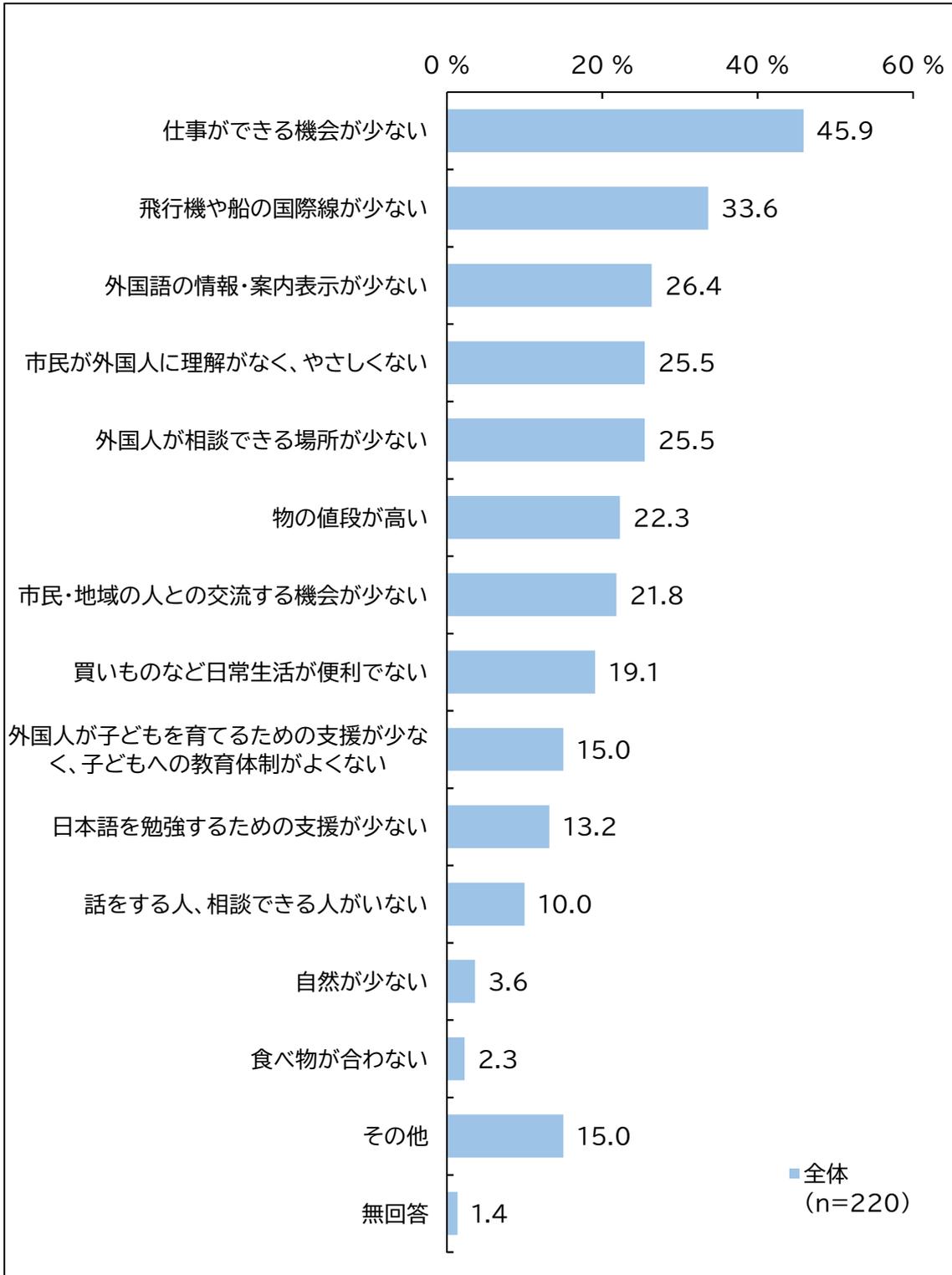


【傾向】

- 「食べ物が新鮮でおいしい」と答えた人の割合は男性(49.9%)と比較して女性(57.8%)で高かった。「物の値段が安い」と答えた人の割合は女性(17.3%)と比較して男性(30.1%)で高かった。
- 「食べ物が新鮮でおいしい」、「買い物など日常生活が便利」と答えた人の割合は年齢が高いほど高くなる傾向がみられる。「自然が多い」、「市民が外国人に理解があり、親切」、「物の値段が安い」と答えた人の割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。18歳～29歳では、「自然が多い」(54.6%)の割合が最も高くなっている。

- 回答者数が 100 人以上の区をみると、中央区では「買いものなど日常生活が便利」(57.6%)、「食べ物が新鮮でおいしい」(50.0%)、「自然が多い」(47.2%)の順に、西区では「自然が多い」(61.2%)、「食べ物が新鮮でおいしい」(56.8%)、「買いものなど日常生活が便利」(42.7%)の順に、東区では「買いものなど日常生活が便利」(64.2%)、「食べ物が新鮮でおいしい」(58.4%)、「自然が多い」(43.1%)の順に割合が高かった。
- 回答者数が 100 人以上の国籍をみると、中国では「自然が多い」(58.4%)、「食べ物が新鮮でおいしい」(57.3%)、「買いものなど日常生活が便利」(44.4%)の順に、韓国では「食べ物が新鮮でおいしい」(69.1%)、「買いものなど日常生活が便利」(65.5%)、「自然が多い」(50.0%)の順に、フィリピンでは、「食べ物が新鮮でおいしい」(55.0%)、「買いものなど日常生活が便利」(43.0%)、「自然が多い」「市民が外国人に理解があり、親切」(いずれも 41.0%)の順に割合が高かった。
- 回答者数が 100 人以上の在留資格をみると、永住者では「買いものなど日常生活が便利」(59.3%)、「食べ物が新鮮でおいしい」(59.0%)、「自然が多い」(51.0%)の順に、日本人の配偶者では「食べ物が新鮮でおいしい」(73.6%)、「買いものなど日常生活が便利」(59.5%)、「自然が多い」(47.9%)の順に、留学では「自然が多い」(52.5%)、「買いものなど日常生活が便利」(43.0%)、「食べ物が新鮮でおいしい」、「市民が外国人に理解があり、親切」(いずれも 39.2%)の順に割合が高かった。
- 「食べ物が新鮮でおいしい」と答えた人の割合は、居住期間が長いほど高くなる傾向が、「市民が外国人に理解があり、親切」、「物の値段が安い」と答えた人の割合は、居住期間が短いほど高くなる傾向がみられる。
- 「市民が外国人に理解があり、親切」、「物の値段が安い」と答えた人の割合は、日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられる。

(3)「住みにくい」と思う理由 ※3 つまで選択可

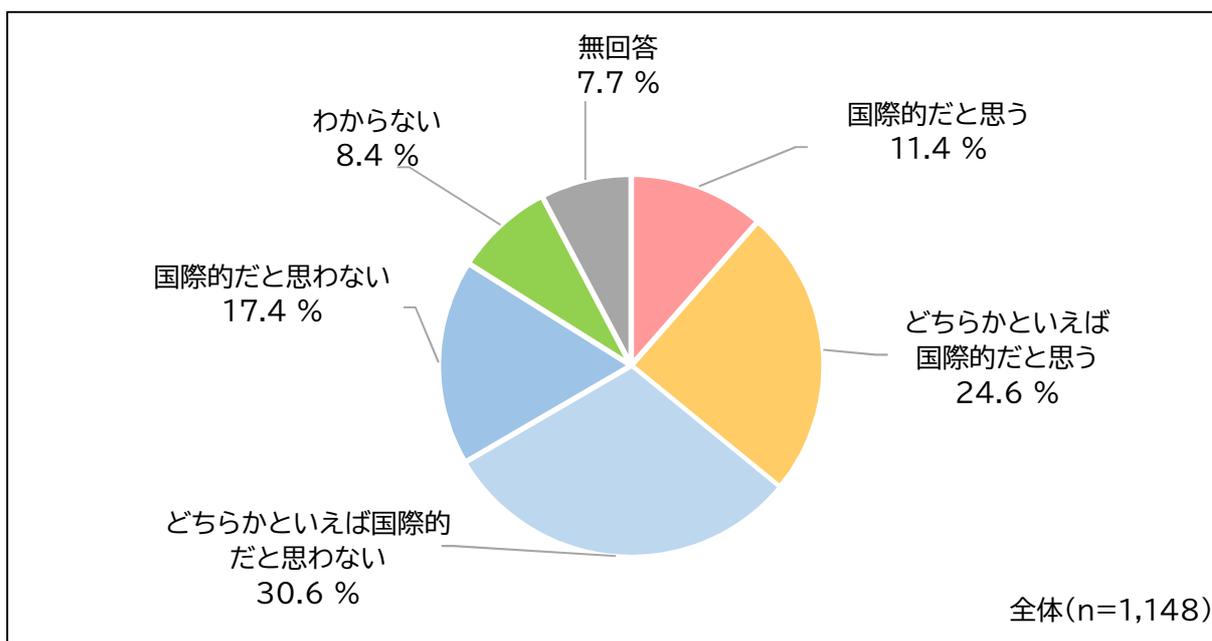


【傾向】

- 「物の値段が高い」と答えた人の割合は男性(14.4%)と比較して女性(28.8%)で高かった。「市民・地域の人との交流する機会が少ない」と答えた人の割合は女性(18.6%)と比較して男性(26.8%)で高かった。

3. 国際的な都市について

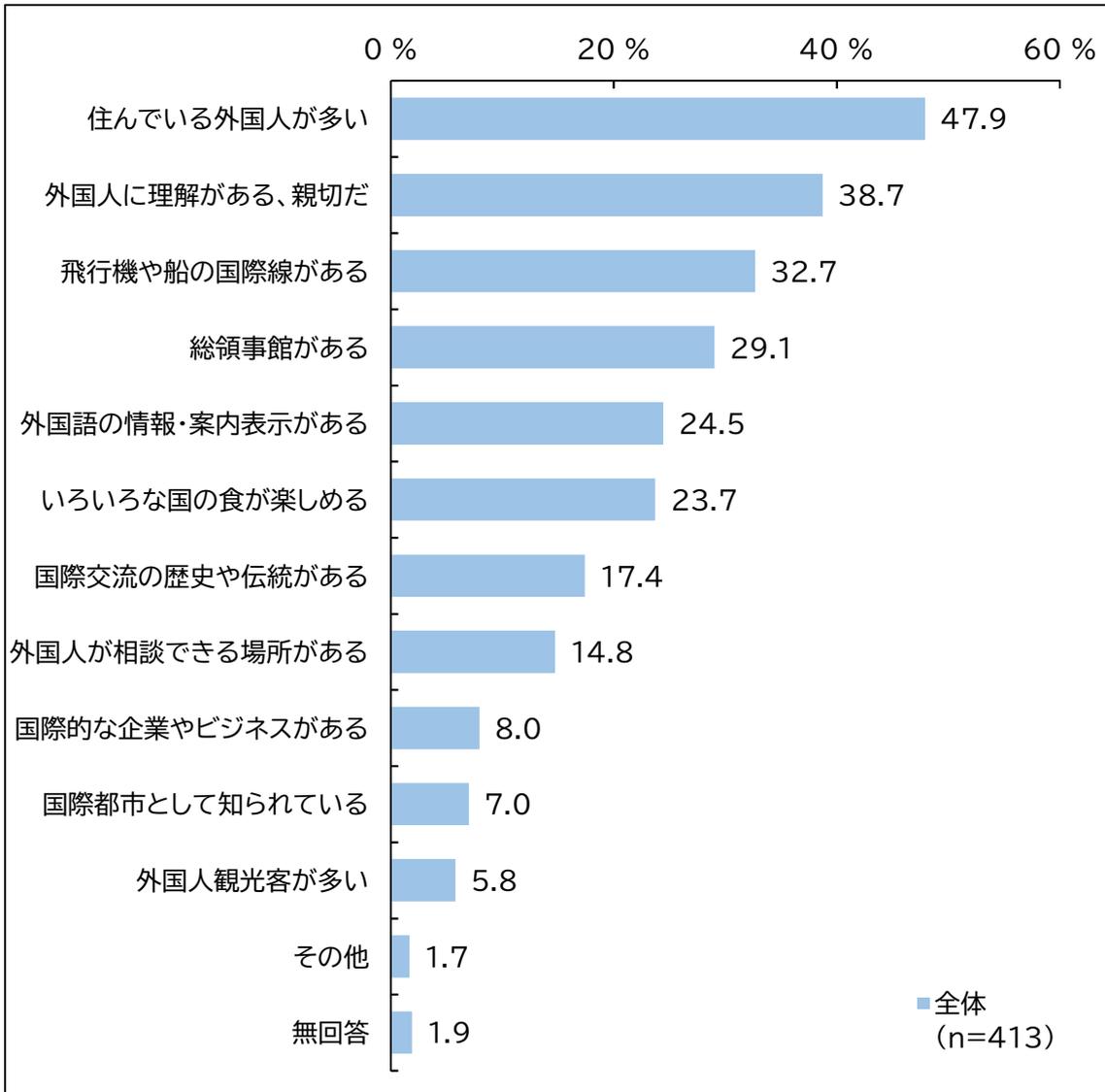
(1)新潟市は国際的な都市だと思うか



【傾向】

- 「国際的だと思わない」と「どちらかといえば国際的だと思わない」を合わせた『国際的だと思わない』と答えた人の割合は、女性(45.1%)と比較して男性(51.0%)で高かった。
- 『国際的だと思わない』と答えた人の合計の割合は、50歳～59歳(53.7%)、30歳～39歳(53.6%)、40歳～49歳(51.4%)で高く5割を超えた。
- 回答者数が少ない区もあり参考とするが、『国際的だと思わない』と答えた人の合計の割合は、江南区(60.7%)で最も高く6割を超えた。次に北区(53.2%)、西区(50.7%)の順となった。
- 回答者数が100人以上の国籍をみると、『国際的だと思わない』と答えた人の合計の割合は、韓国(48.1%)で最も高く、次に中国(47.1%)、フィリピン(43.3%)の順となった。ベトナム(29.8%)は約3割と上記の国籍と比較して割合が低く、『国際的だと思う』(52.9%)と答えた人が5割を超えた。
- 回答者数が100人以上の在留資格をみると、『国際的だと思わない』と答えた人の合計の割合は、永住者(53.7%)で最も高く、次に日本人の配偶者(53.1%)、技術・人文知識・国際業務(50.9%)、留学(40.5%)の順となった。留学は『国際的だと思う』(48.2%)が『国際的だと思わない』を上回っている。
- 『国際的だと思う』と答えた人の合計の割合は、居住期間が3年以上の人と比較して3年未満の人で高い。
- 日本語の能力によるはっきりとした傾向等はみられない。

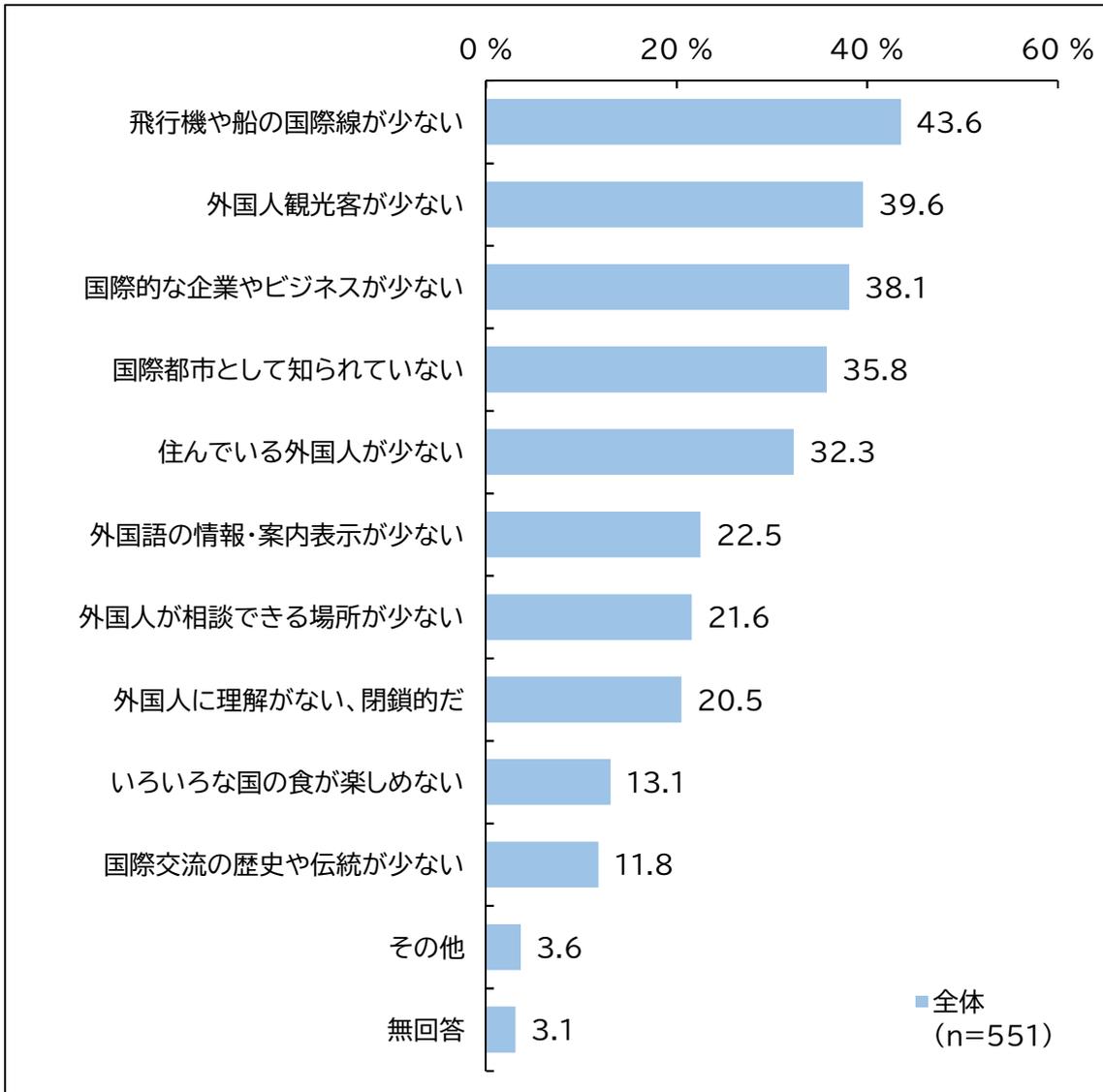
(2)「国際的な都市」だと思う理由 ※3 つまで選択可



【傾向】

- 「住んでいる外国人が多い」と答えた人の割合は男性(42.3%)と比較して女性(51.6%)で高かった。「国際交流の歴史や伝統がある」と答えた人の割合は女性(14.8%)と比較して男性(21.5%)で高かった。
- 回答者数が少ないため参考とするが、「住んでいる外国人が多い」と答えた人の割合は年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。
- 「飛行機や船の国際線がある」、「総領事館がある」、「外国語の情報・案内表示がある」と答えた人の割合は日本語能力が高いほど高くなる傾向がみられ、「外国人に理解がある、親切だ」と答えた人の割合は日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられた。

(3)「国際的な都市」だと思わない理由 ※3 つまで選択可

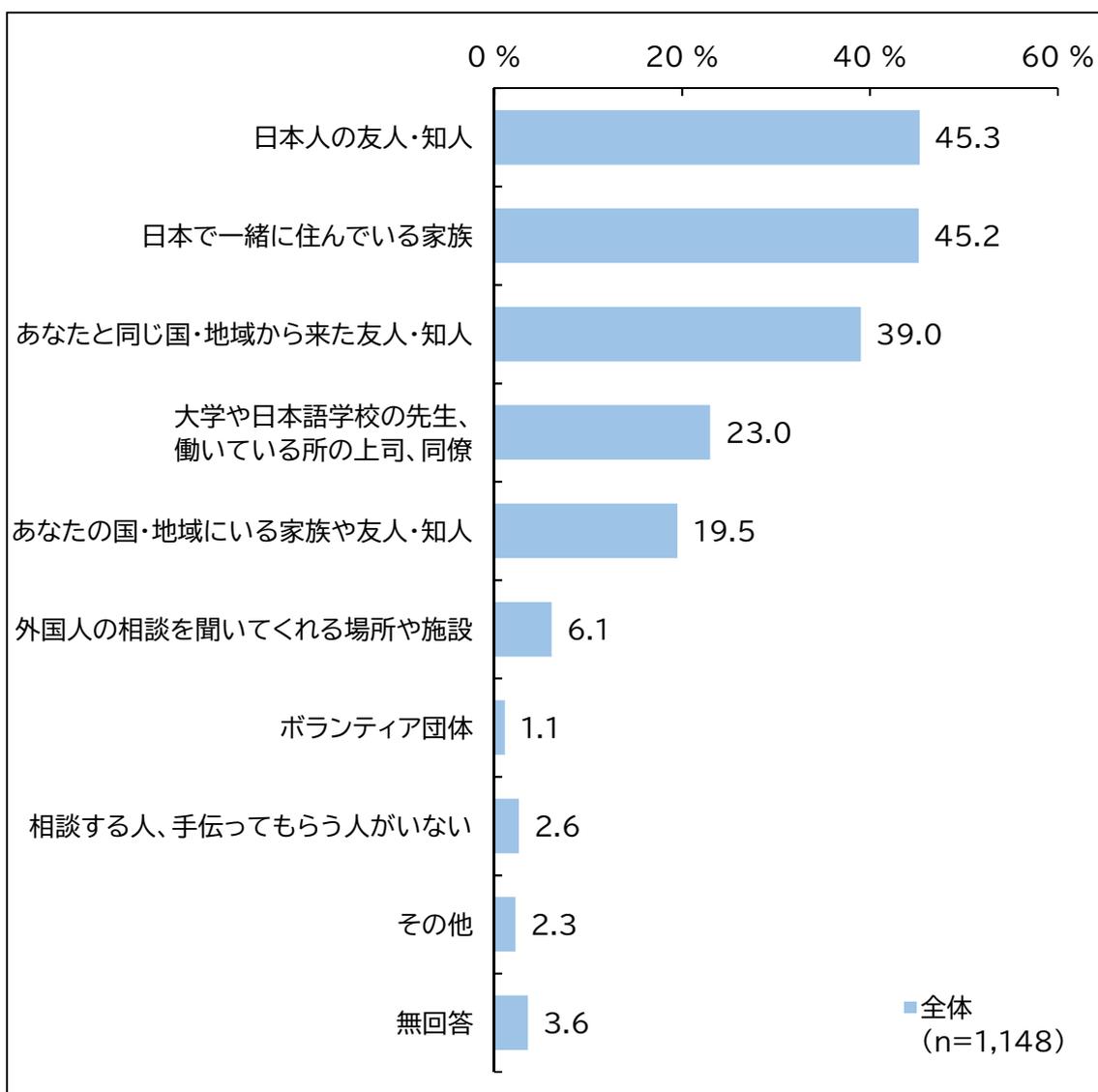


【傾向】

- 「飛行機や船の国際線が少ない」と答えた人の割合は男性(36.1%)と比較して女性(49.3%)で高かった。「住んでいる外国人が少ない」と答えた人の割合は女性(28.5%)と比較して男性(37.8%)で高かった。
- 「外国語の情報・案内表示が少ない」と答えた人の割合は年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。逆に「外国人が相談できる場所が少ない」と答えた人の割合は年齢が高いほど高くなる傾向がみられる。
- 「飛行機や船の国際線が少ない」、「外国人観光客が少ない」、「国際的な企業やビジネスが少ない」、「国際都市として知られていない」、「住んでいる外国人が少ない」と答えた人の割合は日本語能力が高いほど高くなる傾向がみられ、「外国語の情報・案内表示が少ない」、「外国人が相談できる場所が少ない」と答えた人の割合は日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられた。

4. 相談相手

(1)相談相手 ※複数選択可



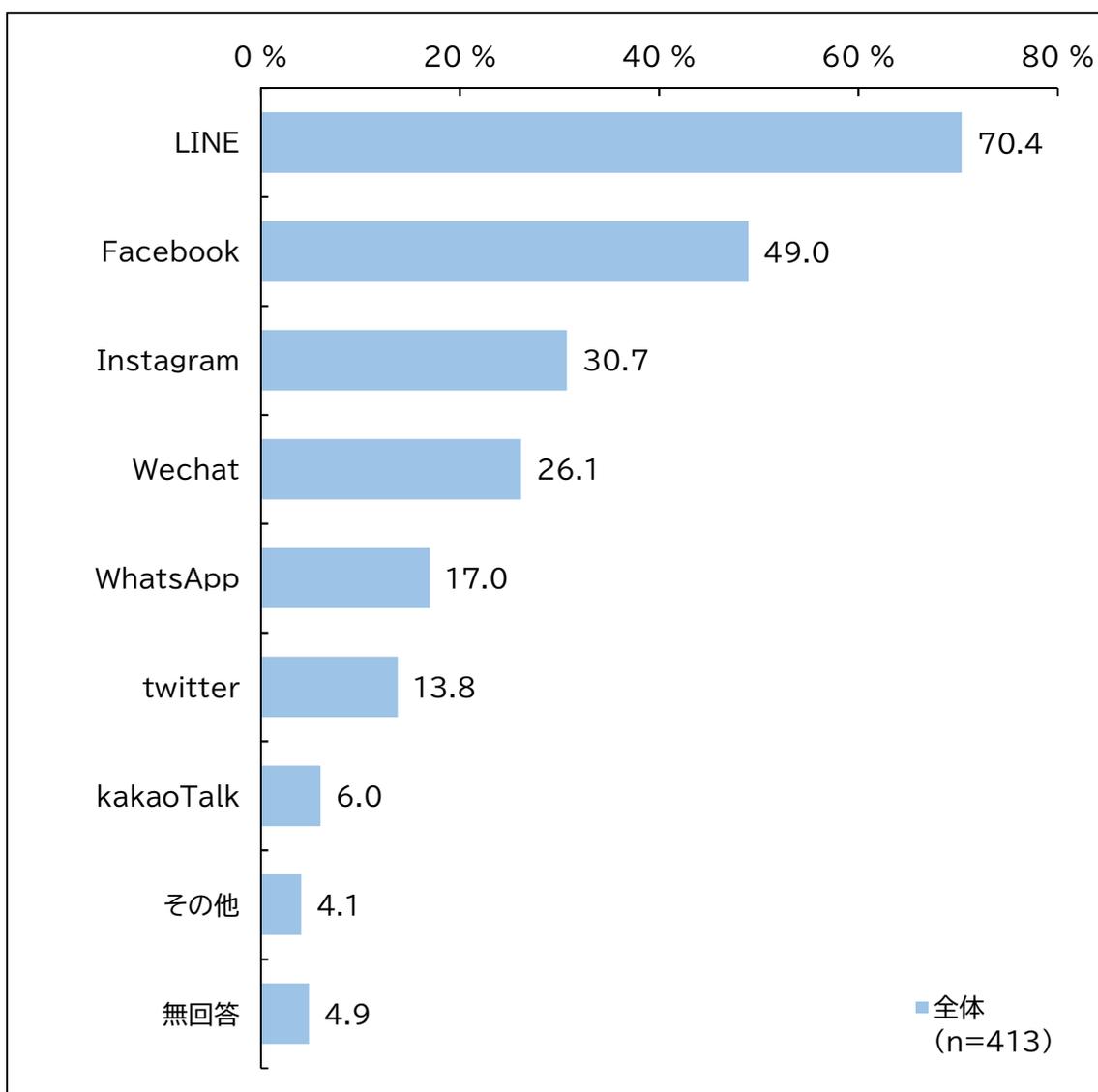
【傾向】

- 「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」、「あなたの国・地域にいる家族や友人・知人」の自国の人と答えた人の割合は男性(各 32.5%、15.0%)と比較して女性(各 43.6%、22.4%)で高かった。
- 「日本で一緒に住んでいる家族」と答えた人の割合は年齢が高いほど高くなる傾向がみられる。「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」、「大学や日本語学校の先生、働いている所の上司、同僚」と答えた人の割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。
- 回答者数が100人以上の区をみると、中央区では「日本人の友人・知人」(47.8%)、「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」(39.5%)、「日本で一緒に住んでいる家族」(38.8%)順に、西区では「日本人の友人・知人」(47.8%)、「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」(47.1%)、「日本で一緒に住んでいる家族」(37.7%)の順に、東区では「日本で一緒に住んでいる家族」(58.8%)、「日本人の友人・知人」(37.9%)、「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」(31.1%)の順に割合が高かった。

- 回答者数が 100 人以上の国籍をみると、中国では「日本で一緒に住んでいる家族」(48.3%)、「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」(46.8%)、「日本人の友人・知人」(34.9%)の順に、韓国では「日本人の友人・知人」(58.3%)、「日本で一緒に住んでいる家族」(57.7%)、「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」(25.6%)の順に、フィリピンでは「日本で一緒に住んでいる家族」(54.2%)、「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」(48.3%)、「日本人の友人・知人」(43.3%)の順に、ベトナムでは「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」(50.0%)、「日本人の友人・知人」(40.4%)、「大学や日本語学校の先生、働いている所の上司、同僚」(33.7%)の順に割合が高かった。フィリピンでは「あなたの国・地域にいる家族や友人・知人」(30.0%)が3割と他と比較して割合が高かった。
- 回答者数が 100 人以上の在留資格をみると、永住者では「日本で一緒に住んでいる家族」(66.8%)、留学では「大学や日本語学校の先生、働いている所の上司、同僚」(61.4%)、日本人の配偶者では「日本で一緒に住んでいる家族」(81.7%)、技術・人文知識・国際業務では「日本人の友人・知人」(55.7%)と、それぞれ違いがみられた。
- 「日本で一緒に住んでいる家族」と答えた人の割合は、居住期間が長いほど高くなる傾向が、「あなたと同じ国・地域から来た友人・知人」、「大学や日本語学校の先生、働いている所の上司、同僚」と答えた人の割合は、居住期間が短いほど高くなる傾向がみられる。
- 「日本人の友人・知人」、「日本で一緒に住んでいる家族」と答えた人の割合は、日本語能力が高いほど高くなる傾向がみられる。

5. 利用している SNS

(1)利用している SNS ※複数選択可



【傾向】

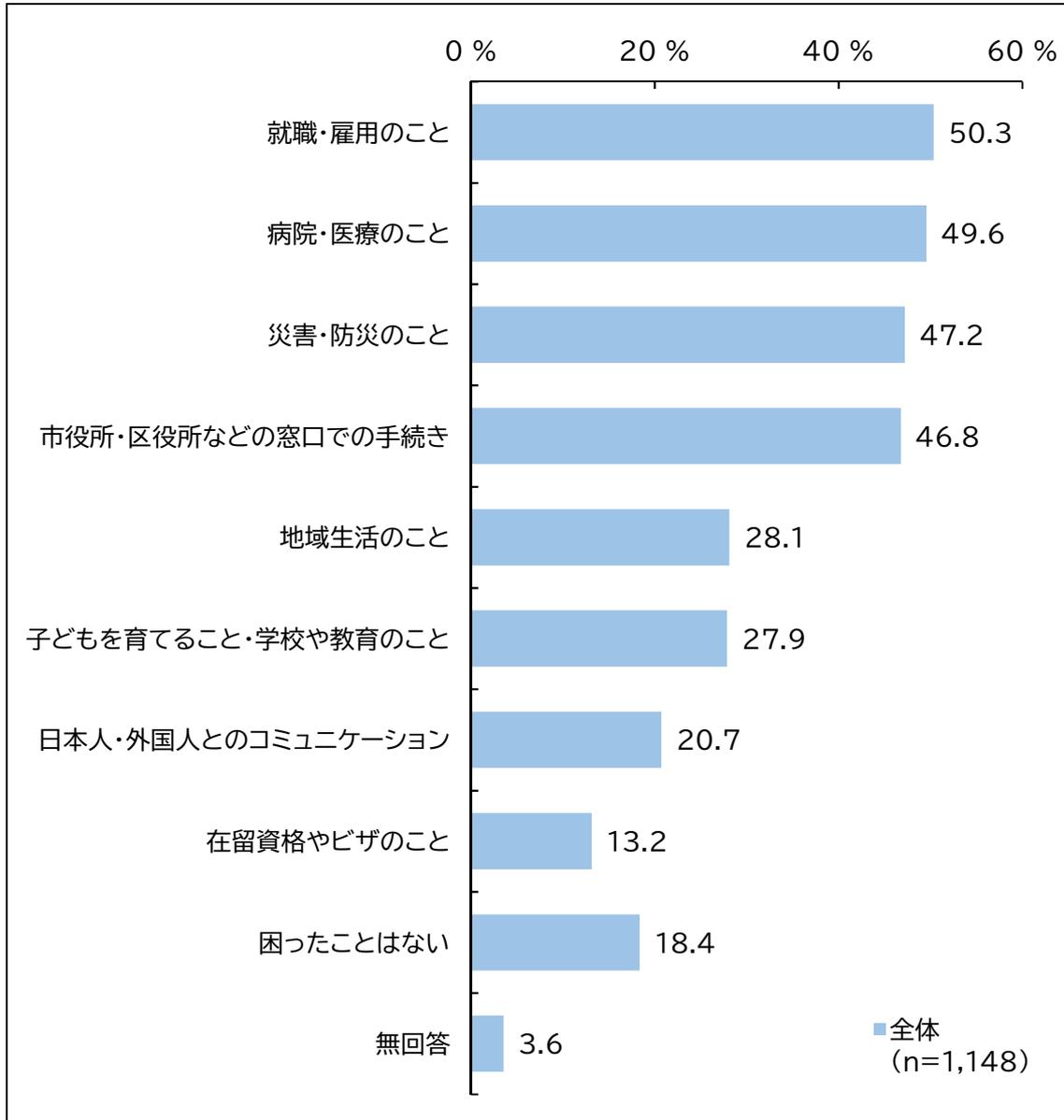
- 「LINE」、「Wechat」「kakaoTalk」と答えた人の割合は男性(各 68.7%、21.8%、5.8%)と比較して女性(各 71.7%、29.1%、6.1%)で高かった。他の SNS は女性と比較して男性で割合が高かった。
- いずれの SNS も年齢が低いほど利用している人の割合が高くなる傾向がみられる。特に「Instagram」で、年齢が低い人と高い人との差が顕著になっている。
- 回答者数が 100 人以上の区をみると、中央区では「LINE」(73.5%)、「Facebook」(54.5%)、「Instagram」(36.3%)の順に、西区でも「LINE」(71.7%)、「Facebook」(39.5%)、「Instagram」(38.8%)の順となったが、東区では「LINE」(65.5%)、「Facebook」(44.6%)、「Wechat」(21.5%)の順となった。
- 回答者数が 100 人以上の国籍をみると、中国では「Wechat」(82.3%)が最も高く他の国籍との大きな差がみられた。次に「LINE」(70.3%)で他は 2 割以下となった。韓国では「LINE」(74.4%)、「kakaoTalk」(39.1%)の順、フィリピンでは「Facebook」

(88.3%)、「LINE」(69.2%)、「Instagram」(22.5%)の順、ベトナムでも「Facebook」(98.1%)、「LINE」(53.8%)、「Instagram」(26.9%)の順となった。

- 回答者数が 100 人以上の在留資格をみると、永住者では「LINE」(69.5%)、「Facebook」(38.7%)、「Wechat」(32.2%)の順に、日本人の配偶者では「LINE」(68.6%)、「Facebook」(42.3%)、「Instagram」(23.4%)の順、留学では「LINE」(77.3%)、「Instagram」(57.7%)「Facebook」(53.2%)の順、技術・人文知識・国際業務では「LINE」(74.5%)、「Facebook」(67.0%)、「Instagram」(40.6%)の順に割合が高かった。
- いずれの SNS も年齢が低いほど利用している人の割合が高くなることもあり、居住期間が短いほど利用している割合が高くなる傾向がみられるが、「Wechat」は日本、新潟いずれも居住期間が 10 年～20 年未満の人で割合が高かった。
- 「LINE」と答えた人の割合は、日本語能力が高いほど高くなる傾向がみられる。逆に「Facebook」と答えた人の割合は、日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられる。

6. 生活で困る(困った)こと

(1)生活で困る(困った)こと ※3 つまで選択可

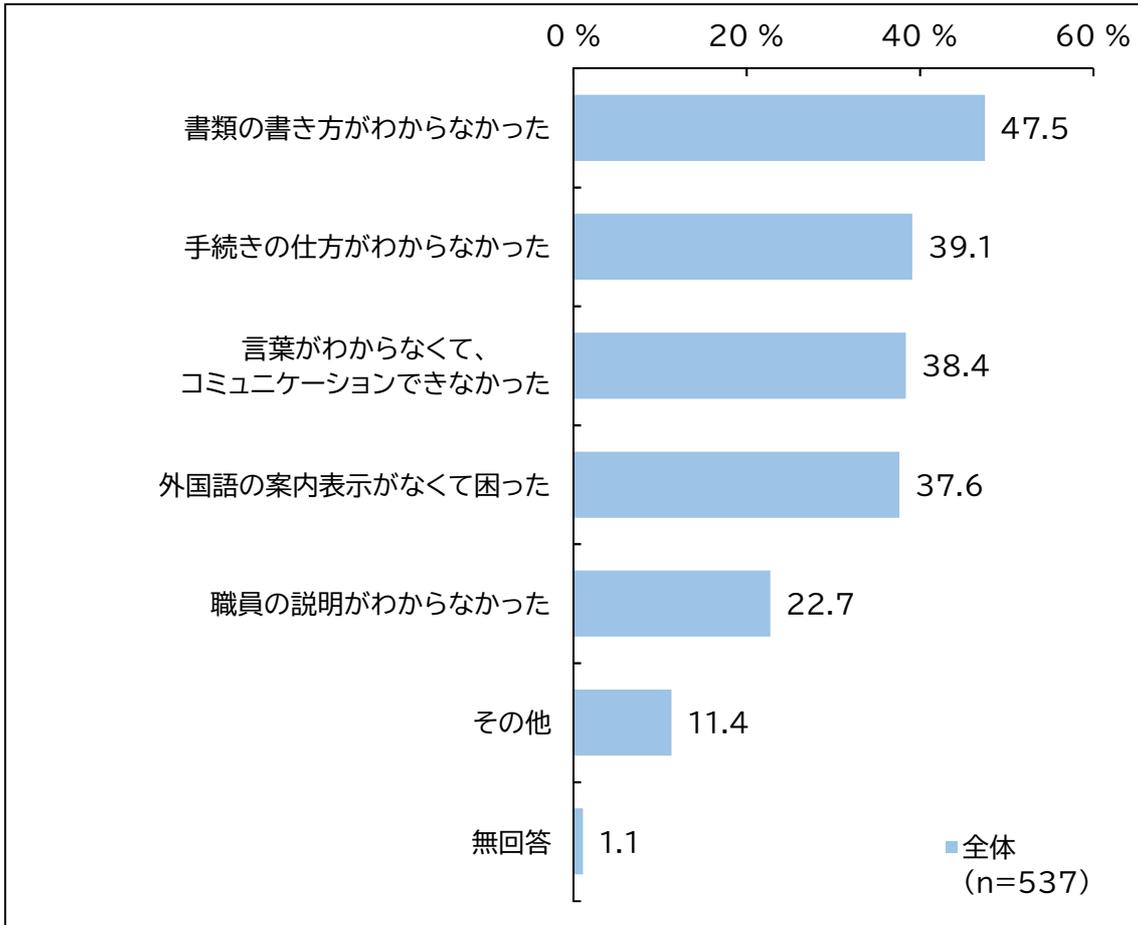


【傾向】

- 「病院・医療のこと」、「災害・防災のこと」、「市役所・区役所などの窓口での手続き」、「子どもを育てること・学校や教育のこと」と答えた人の割合は男性(各 45.8%、39.4%、42.2%、24.8%)と比較して女性(各 51.6%、52.5%、49.6%、29.6%)で高かった。
- いずれの項目も、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。逆に「困ったことはない」と答えた人の割合は、年齢が高いほど高くなる傾向がみられ、若い人ほど困っていることが何かしらある人の割合が高いことが伺えた。
- 回答者数が 100 人以上の区をみると、中央区、西区、東区のいずれも、「就職・雇用のこと」、「病院・医療のこと」、「災害・防災のこと」、「市役所・区役所などの窓口での手続き」の 4 項目の割合が高くなっている。

- 回答者数が 100 人以上の国籍をみると、中国では「就職・雇用のこと」(53.8%)、フィリピンでは、「災害・防災こと」「市役所・区役所などの窓口での手続き」(いずれも 70.8%)、ベトナムでは「災害・防災こと」(66.3%)が最も割合が高い。韓国では「就職・雇用のこと」(35.3%)が最も高いが、「困ったことはない」(32.7%)の割合も高く差が小さい。他の国籍と比較して、「困ったことはない」割合が突出して高かった。
- 回答者数が 100 人以上の在留資格をみると、永住者では「就職・雇用のこと」(46.6%)、「病院・医療のこと」(39.0%)、「災害・防災のこと」(38.1%)、「市役所・区役所などの窓口での手続き」(37.6%)の順に、日本人の配偶者では「市役所・区役所などの窓口での手続き」(58.9%)、「就職・雇用のこと」(57.7%)、「病院・医療のこと」(51.4%)、「災害・防災のこと」(50.9%)の順に、留学では「病院・医療のこと」(62.7%)、「就職・雇用のこと」(51.4%)、「市役所・区役所などの窓口での手続き」(49.1%)、「災害・防災のこと」(47.7%)の順に、技術・人文知識・国際業務では「病院・医療のこと」(51.9%)、「就職・雇用のこと」(50.9%)、「災害・防災のこと」(48.1%)、「市役所・区役所などの窓口での手続き」(34.9%)の順に割合が高かった。
- 「病院・医療のこと」、「災害・防災のこと」、「市役所・区役所などの窓口での手続き」と答えた人の割合は、居住期間が短いほど高くなる傾向がみられる。
- 「就職・雇用のこと」、「病院・医療のこと」、「災害・防災のこと」、「市役所・区役所などの窓口での手続き」と答えた人の割合は、日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられる。

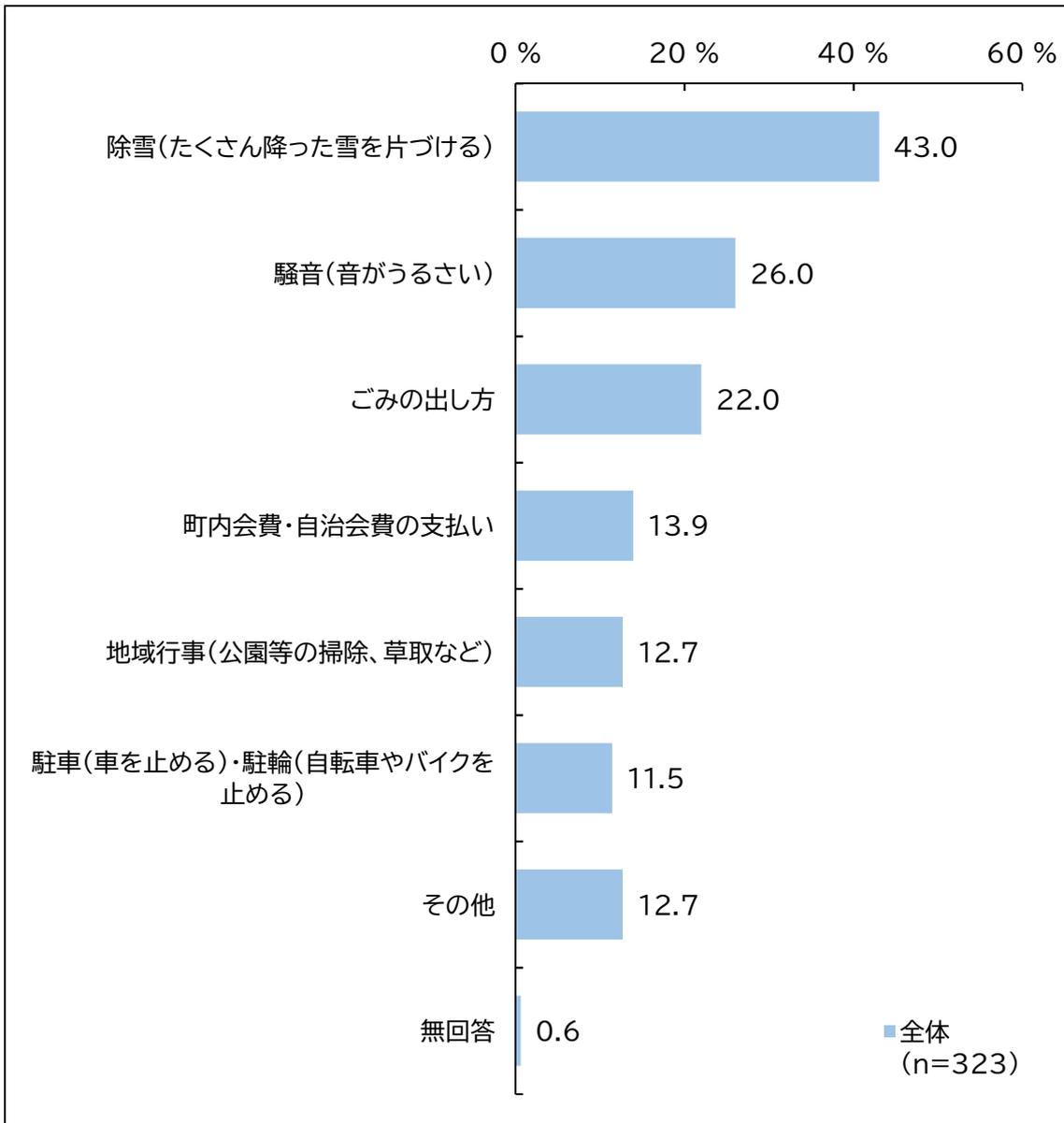
(2)市役所や区役所の手続きで困る(困った)こと ※複数選択可



【傾向】

- 「手続きの仕方がわからなかった」と答えた人の割合は男性(35.0%)と比較して女性(41.3%)で高かった。
- 「書類の書き方がわからなかった」、「手続きの仕方がわからなかった」と答えた人の割合は年齢が高いほど高くなる傾向がみられる。逆に「言葉がわからなくて、コミュニケーションできなかった」、「外国語の案内表示がなくて困った」と答えた人の割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。
- 「書類の書き方がわからなかった」と答えた人の割合は居住期間が長いほど高くなる傾向がみられる。逆に「言葉がわからなくて、コミュニケーションできなかった」、「外国語の案内表示がなくて困った」と答えた人の割合は、居住期間が短いほど高くなる傾向がみられる。
- 「言葉がわからなくて、コミュニケーションできなかった」、「外国語の案内表示がなくて困った」と答えた人の割合は、日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられる。「書類の書き方がわからなかった」と答えた人の割合は、日本語を“読む”、“書く”能力が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。

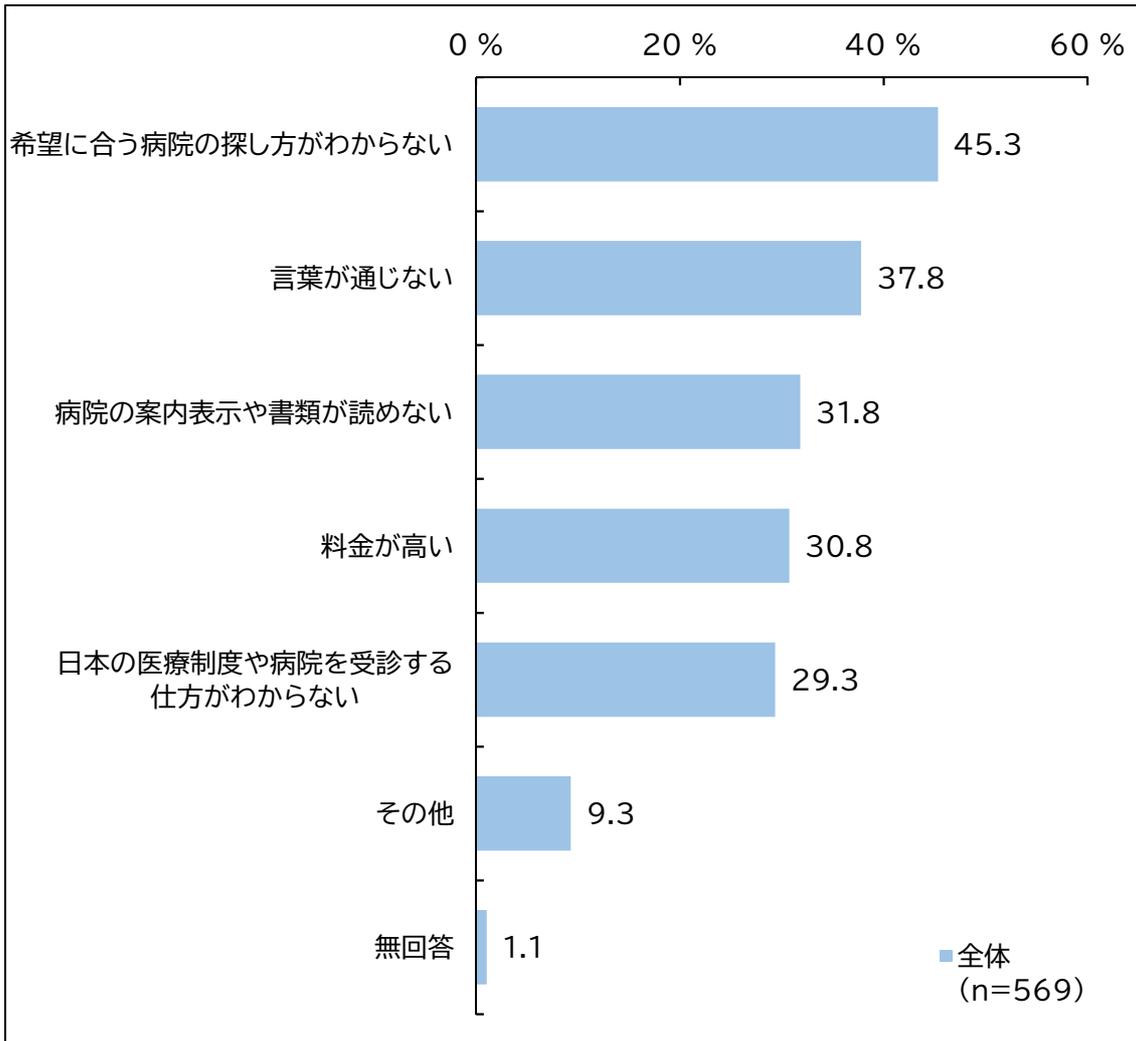
(3)地域生活で困る(困った)こと ※複数選択可



【傾向】

- 「騒音(音がうるさい)」、「駐車(車を止める)・駐輪(自転車やバイクを止める)」と答えた人の割合は女性(各 21.8%、7.4%)と比較して男性(各 32.3%、16.2%)で高かった。

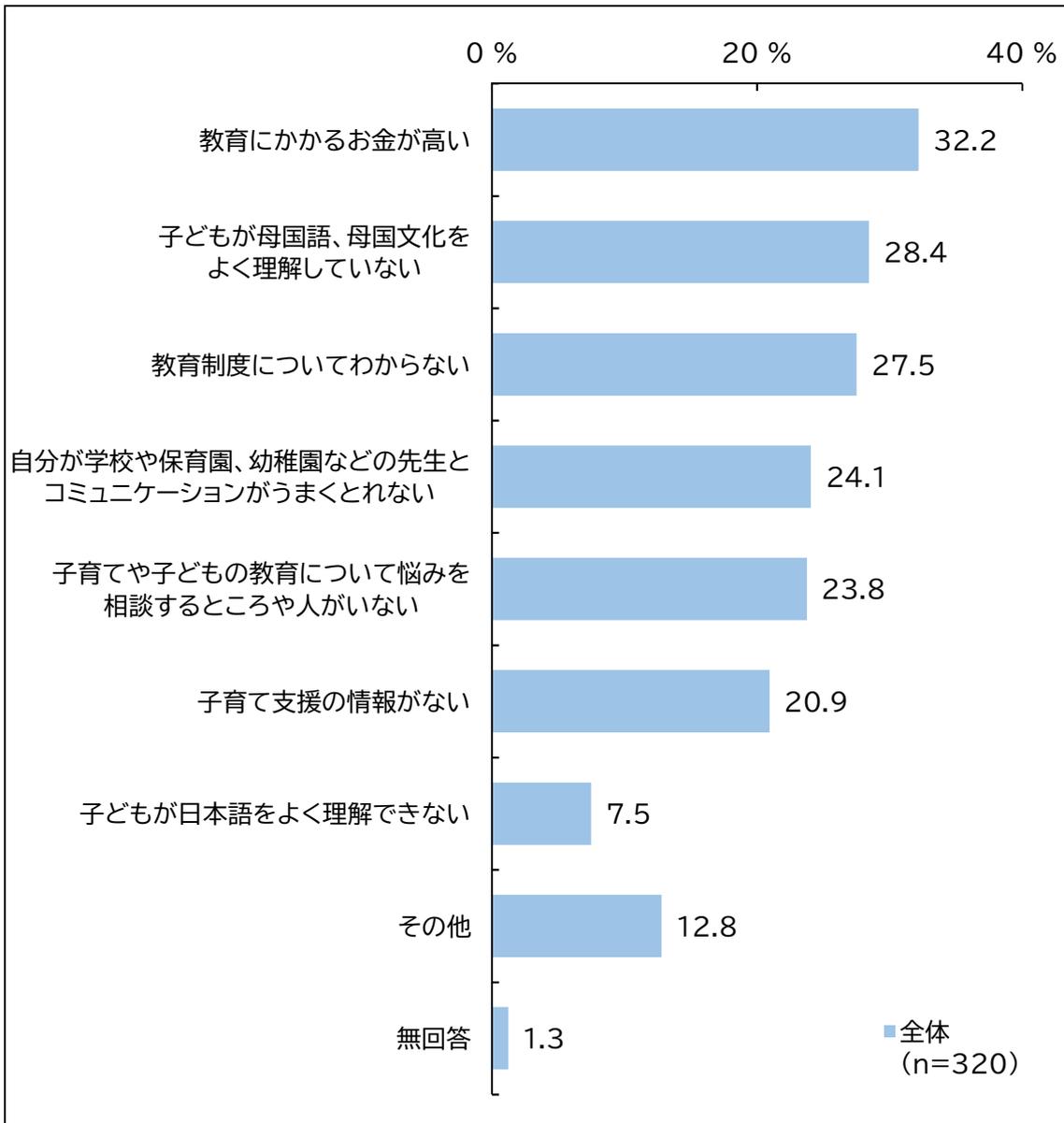
(4)病院・医療で困る(困った)こと ※複数選択可



【傾向】

- 男女での大きな違いはみられなかった。
- 「希望に合う病院の探し方がわからない」、「日本の医療制度や病院を受診する仕方がわからない」と答えた人の割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。
- 「日本の医療制度や病院を受診する仕方がわからない」は18歳から29歳(44.3%)で割合が高く、他の年代と大きな差がみられた。
- 「言葉が通じない」、「日本の医療制度や病院を受診する仕方がわからない」と答えた人の割合は、居住期間が短いほど高くなる傾向がみられる。特に「日本の医療制度や病院を受診する仕方がわからない」では、居住期間による差が顕著にみられた。
- 「言葉が通じない」と答えた人の割合は、日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられる。
- 「病院の案内表示や書類が読めない」と答えた人の割合は、日本語を“読む”、“書く”能力が低いほど割合が高くなる傾向がみられる。

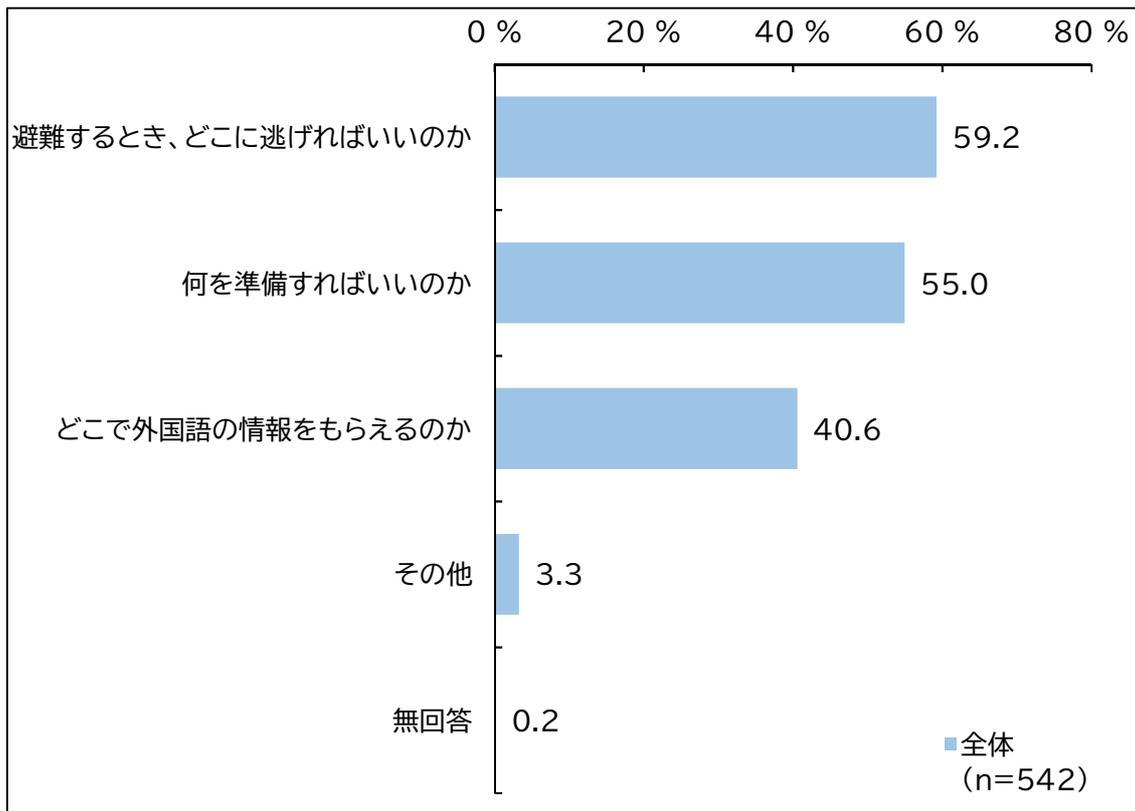
(5)子育てや教育で困る(困った)こと ※複数選択可



【傾向】

- 「教育制度についてわからない」と答えた人の割合は男性(21.6%)と比較して女性(30.8%)で高かった。「自分が学校や保育園、幼稚園などの先生とコミュニケーションがうまくとれない」と答えた人の割合は女性(21.7%)と比較して男性(28.4%)で高かった。

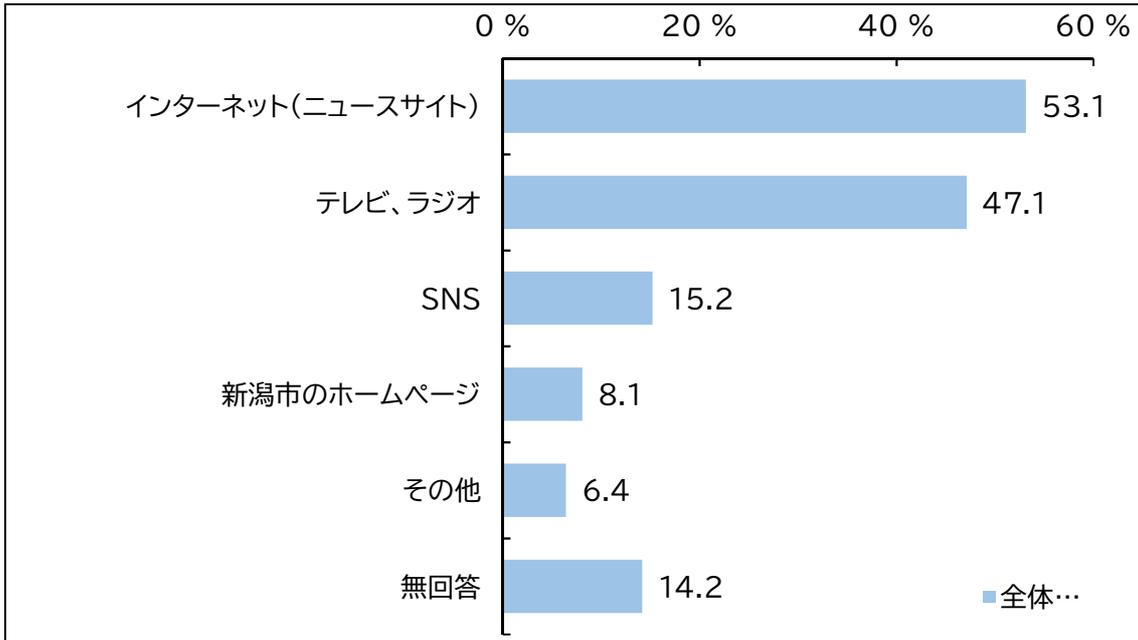
(6)災害に対し心配なこと ※複数選択可



【傾向】

- 「避難するとき、どこに逃げればいいのか」と答えた人の割合は男性(55.4%)と比較して女性(61.0%)で高かった。「どこで外国語の情報をもらえるのか」と答えた人の割合は女性(37.6%)と比較して男性(45.7%)で高かった。
- 「何を準備すればいいのか」と答えた人の割合は年齢が低いほど高くなる傾向がみられる。
- 「どこで外国語の情報をもらえるのか」と答えた人の割合は、日本語能力が低いほど高くなる傾向がみられる。

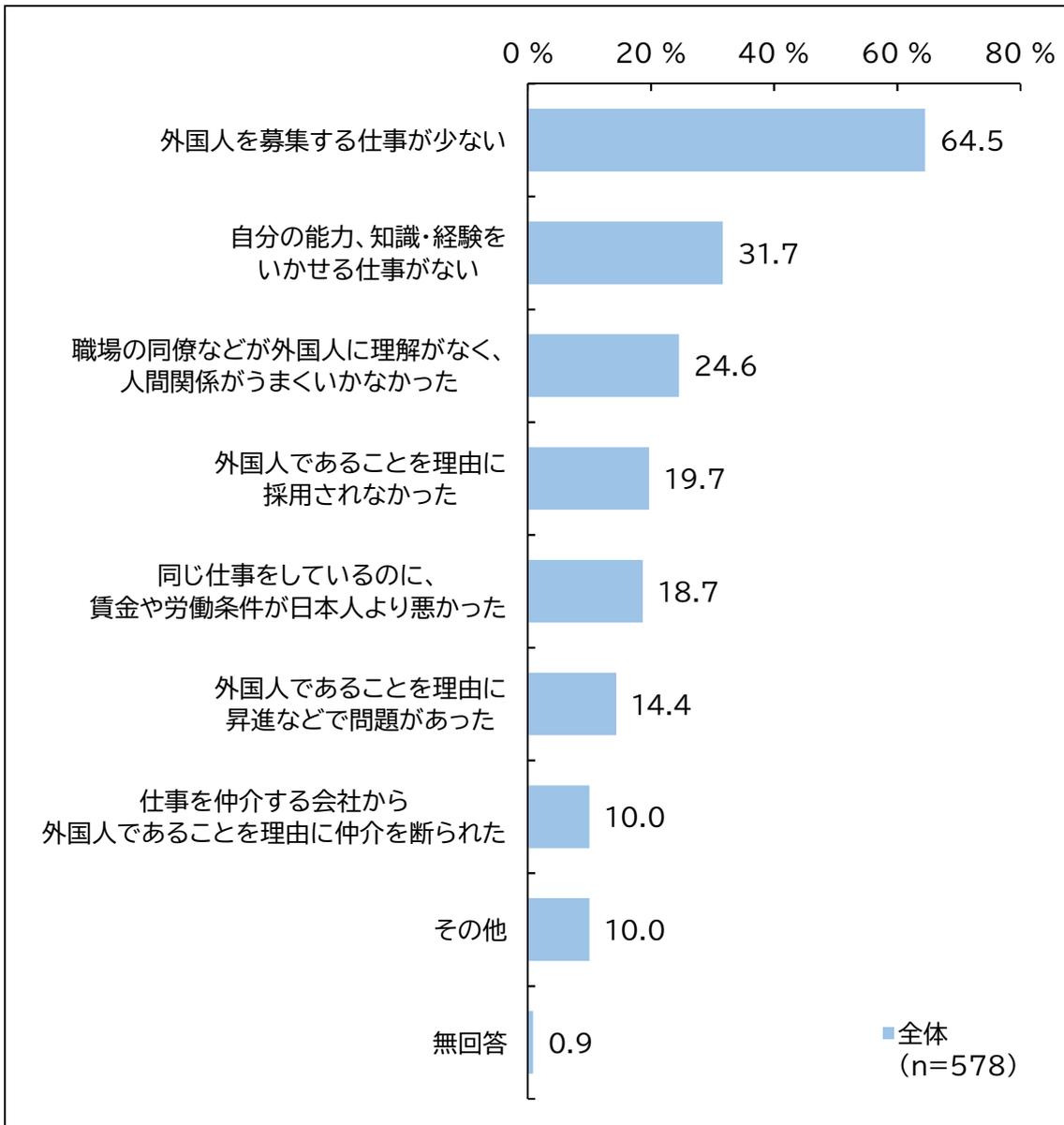
(7)災害時の情報入手手段 ※複数選択可



【傾向】

- 「テレビ、ラジオ」と答えた人の割合は男性(42.0%)と比較して女性(50.5%)で高かった。
- 「インターネット(ニュースサイト)」、「SNS」と答えた人の割合は年齢が低いほど高くなる傾向が、逆に「テレビ、ラジオ」と答えた人の割合は、年齢が高いほど高くなる傾向が顕著にみられる。
- 回答者数が100人以上の区をみると、中央区と西区では「インターネット(ニュースサイト)」(それぞれ 53.8%、59.1%)と答えた人の割合が最も高いが、東区では「テレビ、ラジオ」(65.0%)と答えた人の割合が最も高かった。
- 回答者数が100人以上の国籍をみると、中国では「インターネット(ニュースサイト)」(50.6%)と「テレビ、ラジオ」(50.3%)が拮抗しており、韓国とフィリピンでは「テレビ、ラジオ」(それぞれ62.2%、65.8%)が「インターネット(ニュースサイト)」(それぞれ39.7%、46.7%)よりも割合が高く、ベトナムでは「インターネット(ニュースサイト)」(71.2%)が「テレビ、ラジオ」(25.0%)よりも割合が高くなっている。
- 回答者数が100人以上の在留資格をみると、永住者と日本人の配偶者では「テレビ、ラジオ」(それぞれ 62.7%、63.4%)が「インターネット(ニュースサイト)」(それぞれ 43.1%、49.7%)よりも割合が高く、留学、技術・人文知識・国際業務では「インターネット(ニュースサイト)」(それぞれ 63.6%、67.0%)が「テレビ、ラジオ」(それぞれ 13.2%、32.1%)よりも割合が高くなっている。
- 「インターネット(ニュースサイト)」と答えた人の割合は年齢が低いほど高くなる傾向が見られる。
- 「インターネット(ニュースサイト)」と答えた人の割合は居住期間が短いほど高くなる。逆に「テレビ、ラジオ」と答えた人の割合は、居住期間が長いほど高くなる傾向がみられる。
- 「テレビ、ラジオ」と答えた人の割合は、日本語を“話す”、“聞く”能力が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。

(8)仕事のことで困る(困った)こと



【傾向】

- 「職場の同僚などが外国人に理解がなく、人間関係がうまくいかなかった」と答えた人の割合は男性(20.3%)と比較して女性(26.9%)で高かった。
- 回答数が少ない60歳以上を除き、年齢別での大きな違いはみられなかった。
- 「外国人であることを理由に採用されなかった」と答えた人の割合は、日本語能力が高いほど高くなる傾向が若干みられるが、他に日本語の能力によるはっきりとした傾向等はみられない。